

130th anniversary
1894 - 2024



写真でつづる 佐呂間町 130年のあゆみ



130th anniversary
1894 - 2024



写真でつづる 佐呂間町 130年のあゆみ



写真でつづる 佐呂間町 130年のあゆみ

130th anniversary 1894-2024



自然と、風土と、感動とともに

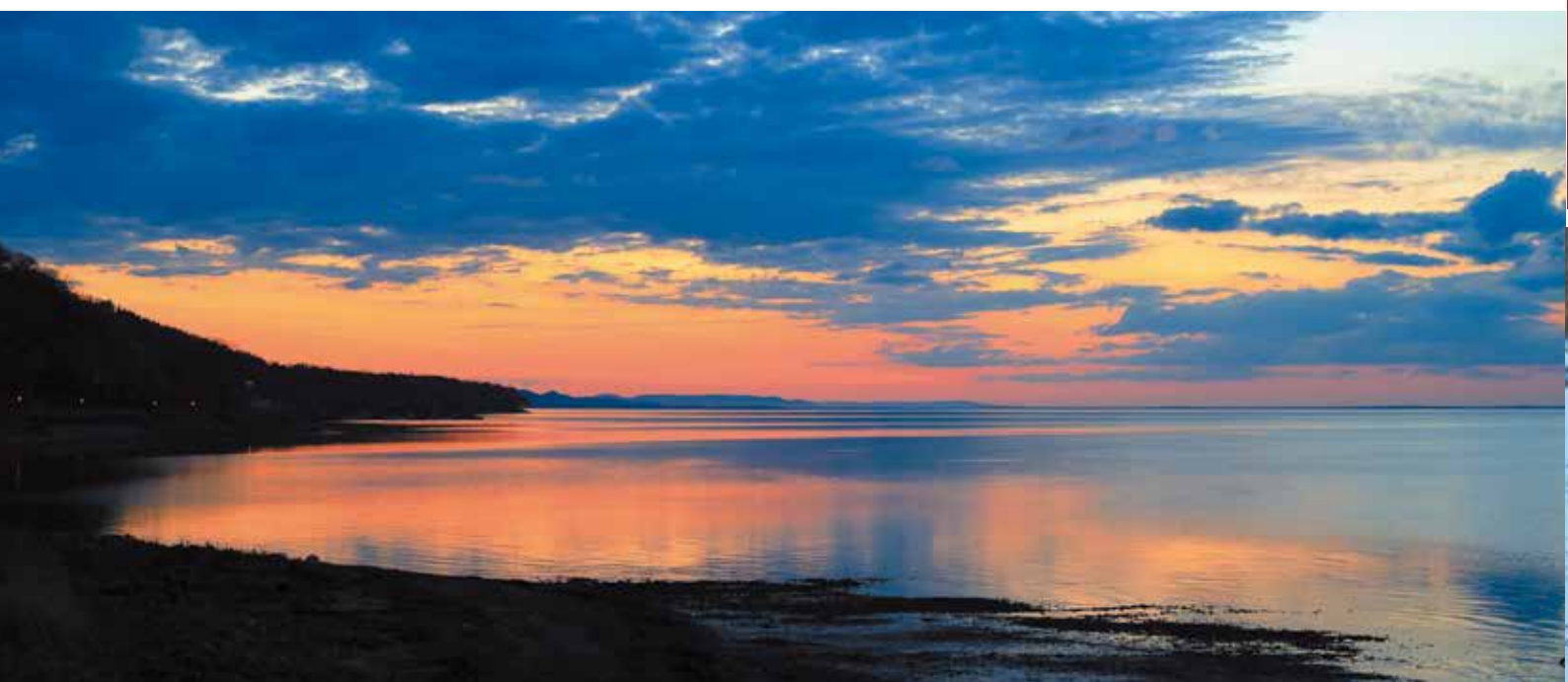
グラフ佐呂間町



大地の黎明
雪解けとともに、待ち侘びていた
春の大地の目覚め。流水の恵みを
たっふりと受けているサロマ湖に
黎明の輝きが戻ってくる。







芳醇な秋景
 サロマ湖を赤く染めるキムアネップ
 のサンゴ草群落。幻想的な雰囲気
 の中で、山々は芳醇なオレンジ色
 に包まれる。





神秘の雪原

冬のサロマ湖は果てしない大雪原。
起伏の無い日本最大級の氷湖の上
は、心を研ぎ澄ますような神秘的な
輝きを放つ。



目次

1	自然と、風土と、感動とともに グラフ佐呂間町
10	ご挨拶 佐呂間町町長 武田温友
11	テーマ別 特別インタビュー いま振り返る想いを刻んだ佐呂間の刻 とき 堀次郎 元町長（1988～2008） 川根 章夫 元町長（2008～2020） 武田 温友 町長（2020～）
17	序章・開基百年記念式典
21	写真でつづる佐呂間町 130年のあゆみ 第1期 1994年～2003年 第2期 2004年～2013年 第3期 2014年～2023年
63 43 23	子どもたちが描く佐呂間の未来図
83	ピックアップ 佐呂間町の歴史を伝えてきた 広報誌のあゆみ
87	
91	年表
97	数字で見る佐呂間の動き



ご挨拶

「激動の平成そして令和へ」

『写真でつづる佐呂間町130年のあゆみ』発刊



佐呂間町町長
武田 温友

佐呂間町は、明治27年に鈴木甚五郎が浜佐呂間の地に鋤をいれ、平成6年に開基百年を迎えました。それから三十年の時間が流れ、時代は平成から令和へ移り、令和6年で佐呂間町は開基百三十年の佳節を迎えました。

開基百年からの三十年間には、国内でも最大規模の竜巻を経験し多くの尊い命が失われ、平成の大合併では3町合併が破談となり単独での町政運営を決断、ルクシ峠の崩落事故など多くの辛い出来事を経験するなか、

北海道日本ハムファイターズからドラフト指名を受けた玉井大翔選手は本町初のプロ野球選手として、町民に勇氣と希望を与え、子どもたちには大きな夢を持つ大切さを教えてくれ、うれしく輝かしい出来事もありました。

激動の平成、そして令和への移り変わりの三十年間を町の広報誌を中心にまとめた記念誌『写真でつづる佐呂間町130年のあゆみ』を作成し、三十年間の出来事を振り返

り、これからも続く佐呂間町の150年、200年への歴史の一ページとしてこの記念誌を発刊いたします。

この記念誌が多くの方々にご覧いただき本町の発展の糧となりますことを願うものであります。

終わりに、本記念誌の編集に際しまして、寄稿や多くの貴重な写真、資料の提供を戴きました皆様には、心から厚くお礼申し上げます。

Message

いも振り返る 想いを刻んだ 佐呂間の刻

堀 次郎元町長

在職期間：1988年～2008年



町政の節目となった開基100年

青森県人鈴木甚五郎氏が浜佐呂間河口に定住した時から100年。私の在職期間に開基100年の節目を迎えられたことは、本当に誇りあることでした。記念式典は雨の予報で心配しましたが、当日は奇跡的に晴れ間を見せてくれました。各種イベントに多くの町民が参加いただき感無量でした。オホーツクの厳しい風雨とたたかいたが、開拓に精進した先人たちに感謝するとともに、素晴らしい町の実現に向けて、決意を新たにすることを思い出します。

今も心にある国内初BSE発生

在職期間中で記憶に刻まれているのが2001年。9月11日にニューヨークの世界貿易センタービルが破壊され驚きの1日を過ごしましたが、翌日我が町にとってさらなる衝撃のニュースが入って来ました。千葉県で牛海綿状脳症（BSE）が見つかったのですが、その牛が佐呂間町生まれということで、精密検査をしているので調査に協力して欲しいという連絡でした。臨床獣医師の経験で狂犬病の知識があ

りましたが、狂牛病の感染は日本でも初めてであり未知でした。その原因が反すう獣の肉骨粉の摂取に由来していることを後に知りました。報道機関の生産者への取材も加熱していたので「肉骨粉の輸入を認めた厚生省へ取材に行くべきでは」と伝えたいことも覚えています。農水省・厚生省にも足を運び、国の責任で全頭検査などの対策を打つよう求めたこともありました。BSEの問題は佐呂間町にとっては大きな痛手でしたが、この問題をきっかけに、地産地消への認識が高まり、地域の食文化が豊かなものになるよう願うばかりです。

竜巻災害からの復旧・復興

2006年11月7日、午後1時20分頃、日本における観測史上最大規模の竜巻が町を襲いました。職員から「新佐呂間トンネル工事を行っている鹿島JVの事務所や宿舍が跡形もなく吹き飛んでいる」との連絡がありました。

若佐市街は太いコンクリート電柱がなぎ倒されるなど普段の風景から一変。鹿島JVの工事事務所やインフォメーション

センターは跡形もない状態でした。新佐呂間トンネルの工事事務所兼宿舍2棟が倒壊し工事関係者9名が死亡、住民含め25名以上が負傷しました。若佐地区の被害戸数は住宅だけで全半壊12戸、一部損壊24戸に達しました。

復旧作業には、莫大な量の瓦礫の山や家具類の撤去が必要でした。個々に対応していたのでは時間も経費もかかるので、直接町内業者に請け負ってもらいました。義援金の公平な配分にも配慮して、「竜巻義援金配分委員会」を立ち上げ、3回の委員会の開催を通して、公平な配分の方角性を決めました。

市町村合併協議破談からの歩み

市町村合併に関する出来事は、在籍期間で忘れることができない町政における大きなターニングポイントになりました。市町村合併が全国的に進む中、佐呂間町でも、7町村（遠軽町、生田原町、丸瀬布町、白滝村、上湧別町、湧別町、佐呂間町）との協議を進めていました。

しかし、2005年2月20日、合併の是非を問う住民投票が行われ、佐呂間町は賛

成が76.5%でしたが、湧別町で「サロマ町」という名称に56%が反対という結果に。2005年2月28日、湧別町は正式に合併協議から離脱を表明。協議会も解散という結果になりました。

長い期間にわたり協議を続けてきましたので、とても残念に感じましたが、この結果を受けて、その後、行政と町民が一体となり、試行錯誤しながらも、佐呂間町は独立独歩、自立の道を歩んでいくきっかけになったとも言えると思います。

地域に密着し地域の課題を解決

今振り返り、地域に密着して、地域の中のさまざまな課題を解決してきた歴史だったと思います。

2007年4月から建設を進めてきた学校給食がスタートしましたが、単に栄養バランスをとるということのみならず、正しい食生活を身につけるとともに、地場産品を利用することで、ふるさとの産業を理解するという食育の観点も含まれています。また、生産者の皆さんに感謝する心を養うことを念頭においていました。

ホタテの養殖の問題も地道に解決してきました。1934年から始まり地域を代表する産業になっていましたが、加工時に生じるホタテウロの処理が問題となっていました。ホタテのウロには自然界のカドミウムが混入しているため、飼料・肥料にも利用できませんでした。

そこで、佐呂間町が中心となり3町・3組合・2加工協が一体になってサロマ湖水産物廃棄物処理委員会を立ち上げ、住友金属工業株式会社の「遠赤外線気流乾燥方式」で生ウロを乾燥し、焼却する事業システムの構築に成功しましたが、焼却する過程で生じる悪臭とコスト面でも採算が合わずこの事業を断念いたしました。

以前からウロの有効活用ができないかと考えていましたが、共和化工株式会社が高高温好気性微生物による超高温発酵堆肥化技術の開発に成功したという情報を得ました。さっそく、大学なども交えた産学官連携の共同実験研究を開始。プラント化の目処が立ち、2006年10月より、ウロから有機肥料づくりを行う施設の運用を開始しています。この成功が、近い将来において循環型農業の確立に一翼を担うことを期待しています。

「誇りある開基100年を越えて 次代に継承できる豊かなまちづくりへ」



川根 章夫元町長

在職期間：2008年～2020年

「基盤づくりやインフラづくりを通し 住み続けたいと思ってもらえるまちづくりを」

開設。避難所に第1陣の避難者が来られたため、備蓄庫から毛布・食料を持ち出し、担当者が除雪しながら運んでいきました。

佐呂間町には大きな被害はなく、次の日を迎えました。報道の中で悲しい事故を知りました。中標津町や湧別町で、車が相次いで立ち往生するなどし、3日朝までに8名の死亡が確認されたというものでした。

地域医療を担うクリニックさるま

私が町長になった2010年の12月に、旭川医大医局の人事異動内示があり、2011年4月から後任医師の見込みがなく、佐呂間厚生病院としての運営ができなくなるという申し入れがありました。

入院が必要な患者への対応や救急患者の受け入れに問題が出るのが予想されたために、各所に入院患者の転院の推進と、遠軽町や北見市などへの救急搬送体制の強化を要請しました。遠軽地区広域組合消防署の佐呂間出張所の職員が増員され、救急搬送体制も強化され、2011年4月4日から無床の佐呂間厚生クリニックの診療が開始されました。

地域の足となった「ふれあいバス」

地域の足を確保するための交通網の整備は、私自身が職期間中の力を注いだ施策のひとつでした。

1977年に過疎バス助成制度が制定され、町では毎年バス路線を運行する事業者に対し路線維持のための経費負担を行っていましたが、平成に入ると総額で2500万円を超える状況となっていました。さらに、2005年の市町村合併決裂で、経費は一気に膨れ上がりました。

私が教育長だった2006年、佐呂間町内小学校の統廃合開始により、スクールバスの運行を開始しましたが、多くは民間路線と重複し、二重経費となるなど全体的に非効率的な面がありました。このようなことから、町では既存の民間バス路線の廃止を前提に、一般の方のスクールバスへの乗車を可とする町独自の新たなバス路線の運行を計画しました。

2008年の9月に町長選に出馬したのですが、「子どもから高齢者までがふれあい、これからもずっと住み続けたいと思うまちづくりを進めていきたい」という選挙公約を打ち出しました。それもあって、町長になって「佐呂間町ふれあいバス」

その後も高齢化が加速する佐呂間町内では医療体制への不安が募っていましたので、町長として札幌医師会に対し、医療体制を担ってくれる医療法人がないかという問合せをしました。新聞にも募集記事を掲載し、担い手探しを推進しました。町内の小田医院からは、次の担い手が見つかったら病院施設やスタッフを受け渡したいという有難い申し出がありました。

そんな折、担い手として宮城県黒川郡富谷町で無床の診療所を運営している医療法人・恵尚会に白羽の矢が立ちました。恵尚会は2010年4月から斜網地区の清里町でも1床の診療所を運営しており、オホーツク医療圏において有床の診療所を運営してきた実績を持っていました。

話し合いが進み、2013年5月13日に医療法人恵尚会の理事長と基本合意書に調印し、2014年4月、小田医院の入院ベッド数19床を引き継いで厚生クリニック跡地に「クリニックさるま」を新設しオープンしました。

町民の中にも第一次医療体制が整うという安堵感が広がりました。今後も将来にわたって安心して暮らしていける地域医療の充実に全力で取り組んでいきたい思いを強くしたのを覚えています。

という名称を押さえていただきました。

「佐呂間町ふれあいバス」は6路線、各方面登校便1便、下校便3便を基本としたダイヤ構成にしました。市街地や危険箇所などを除きフリー乗降制を採用。誰でも無料で利用できるため町民にも喜ばれました。また、町外線としては遠軽町と北見市を隔日で運行させ、町外の医療機関の受診ができる体制を整えました。

さまざまな教訓を残した記録的豪雪

2013年3月1日の記録的な豪雪についても思い出されます。天気予報でも注意喚起はありましたが、昼過ぎに一時的に低気圧の渦の中心に入ったため、晴れ間が広がり、かえって吹雪への警戒感が薄れてしまったように思います。

午後2時を過ぎた時点で、爆弾低気圧のように吹雪の威力を増してきました。同じタイミングで、地域の方から除雪の要請がたくさん舞い込んできました。

佐呂間町では何かあった時にはすぐ避難所を開設しようという指針ができていました。豪雪が広がってきたため、すぐに浜佐呂間の活性化センターに避難所を

佐呂間町初のプロ野球選手

在籍期間中に、私としても地域としても誇らしい明るい話題もありました。

佐呂間町出身で新日鐵住金かずさマジック所属だった玉井大翔投手が日本ハムファイターズに入団したことです。

そもそも、日本ハムファイターズが北海道にやって来る前は、道民、とりわけ都市から遠い地域住民にとって、プロ野球選手は雲の上の存在でしたが、玉井投手の入団により、より地元に着したチームとして応援する人が増えたと思います。

地元代表の選手として、さらなる活躍を期待したいと思っています。



「幸福度の向上を図れるような まちづくりの取り組みを町民とともに」



武田 温友町長

在職期間：2020年～

委員会ができ、「もう一度、地元を盛り上げたい」と話し合いを重ね、開催費用となる協賛金集めにも奔走してくれました。

これが佐呂間町の祭りだと言えるものを次の世代に残したい。主体的な若者の頑張りに期待したいと思っています。

語り継ぎたい激動の30年

2024年、開基130年の節目の記念誌を作ろうと決断しました。100周年の時にも記念誌を制作しましたが、それから30年で、いろいろなことがあったわけで、その出来事を語り継がなくてはいけないと考えたからです。

例えば、1994年はワープロの時代で紙の時代でした。現在は、デジタルを超えAIの時代。30年で激変したわけで、歴史の歩みもデータ化されると逆に残らないということもあります。開基130年の節目の記念誌は未来につながる揺るがない道標となると考えています。進化していく時代ですが、この進化が幸福度の向上につながっているかどうかは疑問です。生きている人間が夢を持って、生きがいを持ってふるさとを守っていく。

「決して諦めない」という姿を未来に向けて見せていきたいと考えています。

新型コロナウイルスへの対応

町長に就任後すぐ、新型コロナウイルスの感染が拡大し、対応を迫られました。「北海道医療非常事態宣言」が発出され、今まで経験したことのない様々な対応が必要となりました。特別養護老人ホームでクラスターが発生した時は、亡くなられた方もいらっしゃる、全面的な感染対策など、対応も緊急を要しました。

国や道からも各種の支援施策が発信されましたが、「どのような制度が使えるか、情報が欲しい」「どこに相談すればよいかわからない」といった声が寄せられたため、ワンストップで対応する相談窓口を設置するなどの対応を行いました。

新型コロナウイルス対策では、感染症対策だけでなく医療体制の充実にも国からの交付金を活用しました。将来的な町外医療機関との連携を見据えた電子カルテシステムや予約・健診システム、自動精算機器などを整備することができました。佐呂間町は「超」高齢化社会を迎えています。高齢になっても「いつまでも住み慣れた家で安心して健康に暮らすことができる地域づくり」を最優先に進めなければなりません。教育関連では、一時期佐呂間高校への

進学者が12名に減少するという事態に陥りました。町として高校存続対策に力を入れ、修学等に関する経費の一部を助成するという「佐呂間高校生に対する各種応援事業」を実施。これにより、入学者が25名にまでV字回復することができました。

「かぼちゃまつり」から新しい祭りへ

佐呂間町を旅立つ子どもたちの心に残る祭りを創ろうと、1988年に若者が実行委員となり始まったのが「さろまシンデレラ夢まつり」、通称「かぼちゃまつり」です。夢のあるイベントとして30年続いてきましたが、コロナ禍で中止が続く中、中核を担っていた有志団体「かぼちゃ倶楽部」が解散したため、祭りも存続できない状況になりました。私自身も町議会での「かぼちゃまつり」の存続に関する一般質問で、涙したこともありましたが。

その中で、コロナ収束もあり、また「かぼちゃまつり」を受け継ぐような新しい地元の祭りを作っていこうという気運が出てきました。

新しい祭りの名称は「さろま秋宵花火まつり」。官民の若手有志17名による実行



序章・開基百年記念式典

ここから、新たな歩みが始まった。

1994(平成6)年10月15日、町内外から約800名の参加者が集い、佐呂間町開基百年記念式典が佐呂間町武道館で開催されました。佐呂間の礎を築いた先人たちに感謝するとともに、素晴らしい理想郷の実現に向け、決意を新たにしました。まさに、21世紀にふさわしい次代に継承できる町づくり、人づくりを目指した出発点となる記念式典でした。ここから、佐呂間町の新たな歩みが始まりました。



声を合わせ

未来への誓い

これからの未来を作っていくのは、若い人たちの想いと情熱です。次代を担う若者を代表し、佐呂間中・浜佐呂間中・幌岩中・若佐中の中学生4名により、町民憲章が力強く朗唱されました。サロマ湖の歌百人合唱団により、町歌が高らかに斉唱されました。

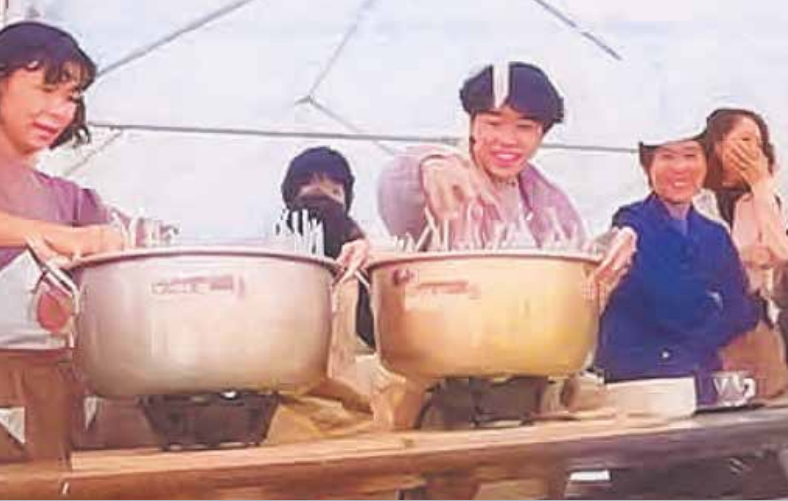


大いなる

展望と決意

町長式辞において佐呂間町を築かれた先人たちに敬意と感謝の意が捧げられ、未来に向けて発展する町づくりを行っていく方向性と恒久の平和社会を建設するために一人ひとりが努力を続けていく決意が示されました。町民を代表し、町議会議長が未来に向けての町づくりを推進していく決意表明を行いました。





ずっと笑顔をつなぐまち

未来に向けた歩み。それはすべての町民が町を愛し、笑顔の暮らしを広げていくことが大切です。「サロマ百年祭」では、町内外から大勢の観客が詰めかけ、楽しいイベントが開催されました。町民たちの溢れんばかりの笑顔はこれからの百年の輝かしい未来の象徴となりました。



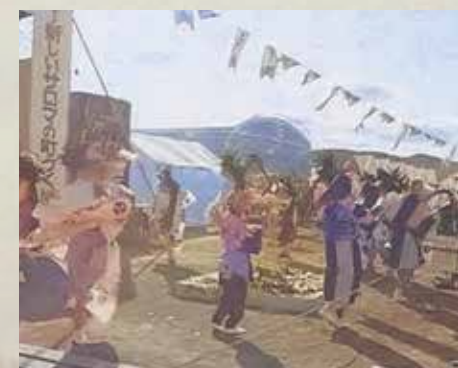
託された未来への伝言

町民の代表21名により、メッセージや各自の思いを寄せた品々をタイムカプセルに納めました。高齢者から次代を担う子どもたちへ大切にタイムカプセルの鍵が手渡され、未来への限らない夢をタイムカプセルに託し封印、佐呂間町の将来に続く繁栄と平和を祈りました。

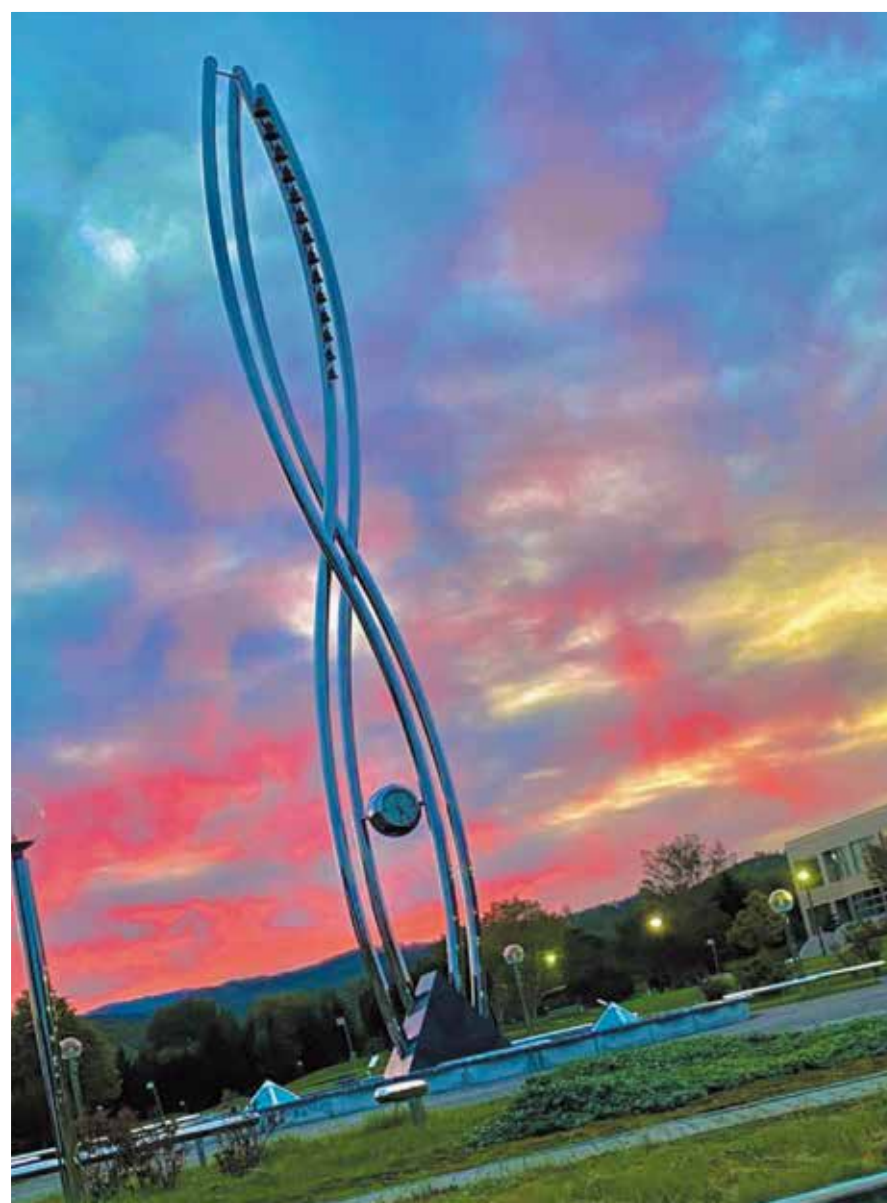


世界との友好の架け橋

未来に向け世界との友好関係を親密に結んでいくことも求められます。式典には姉妹都市であるパーム市からも参列いただき、パーム市の全景が描かれたスクリーンミューローが贈られました。佐呂間町からは伝統の御神輿が贈られ、友好の絆をつなげていくことが確認されました。



そして、次の百年へ 記念モニュメント



写真でつづる

佐呂間町

130年のあゆみ





雄大な風景と自然を満喫する

サロマ湖の宿 「悠林館」オープン

サロマ湖の雄大な風景と、豊富な森林資源を背景に、「町民の憩いの場」「道内外の自然を愛する方々の潤いの場」として、浪速地区の幌岩山麓に完成し、12月3日落成式典が開催されました。式典には、町内外から関係者約50名が出席し、完成を祝いました。



地域活動の拠点として利用

浜佐呂間活性化センター完成

道営事業の中山間地域農村活性化地域整備事業として完成し、12月24日に落成祝賀会が行われました。250名収容可能な多目的ホールをはじめとして、会議室、研修室、図書室などが設けられ、各種住民・文化活動や講演会など、地域活性化のために広く利用されています。



40チームが参加し20時間の熱戦

全町100イニングソフトボール大会



開基100年を盛り上げるイベントとして佐呂間町ソフトボール協会主催で開催。7月16日の午後3時から、17日の午前11時まで、熱戦が繰り広げられました。ナイターリーグ、ゴールドリーグ、シルバーリーグ、シニアリーグのチームの他、この大会のため編成されたチームも参加し、大会を盛り上げました。



第1期

1994

[平成6年]

2世紀へのまちづくりの契機となる
開基100年を迎えて新たな歩みを

1894(明治27)年、蝦夷地の
朔北、サロマ湖の豊富な天然資源
と佐呂間別川流域の肥沃な大地に
夢を抱き、未来に開ける安住の地
を求めて開拓の鋤をおろして1世
紀、佐呂間町は本年開基100年
の意義深い年を迎えました。

開基100年の記念すべき時を
迎えて、輝かしい歴史を静かに回顧
するとともに、2世紀に向けて夢と
希望に満ちた21世紀にふさわしい
次代に継承できるまちづくり、人づ
くりを目指す出発点となるような
100年記念事業や行事が開催さ
れ、町民あげて参加しました。

10月15日に開催された「サロマ
100年祭」には、町内外から大勢
の観客が詰めかけジュニアプラス
バンド、吹奏楽、獅子舞の町民発
表会を皮切りに、100年記念モ
ニメントのお披露目や、大ピン
ゴゲームなど楽しいイベントが開
催されました。

理想郷への決意を新たにする一日

佐呂間町開基百年 記念式典挙行

10月15日、町内外から約800名の参加者が集い、佐呂間町武道館で開催されました。佐呂間の礎を築いた先人たちに感謝するとともに、素晴らしい理想郷の実現に向け、決意を新たにしました。



これからの2世紀を見守っていく

開拓発祥地碑建立



12月24日、浜佐呂間農村公園内に建立された「開拓発祥地碑」の除幕式が行われました。佐呂間町の開祖鈴木甚五郎氏が開拓の鋤をおろした浜佐呂間に功績を讃えるため、建立されました。



開基100周年事業として町民の代表21名により、メッセージや各自の想いが寄せられた品々がタイムカプセルに納められました。高齢者から次代を担う幼児へ、タイムカプセルの鍵が手渡されました。

町民の未来への夢と希望を託して

未来への想いがつまった タイムカプセル



勲五等瑞宝章(自治功労)

故 久米 田鶴夫 氏

昭和26年から昭和60年まで佐呂間町議会議員として在職し、この間、議会副議長としても尽力。その他数々の要職を歴任し、地方自治行政の振興など本町の発展に努めました。



町民の健康づくりのために

武道館温水プール 「スター」落成

11月、100年広場内に多目的複合施設として完成しました。楽しく健康づくりできるようにと温水プールやトレーニングルームが設置されており、開設以来、子どもから高齢者まで幅広い年代の方に活用されています。



第1期

1995

〔平成7年〕



生涯学習の願いを乗せて

移動図書館車「あおぞら号」 巡回開始



約2400冊の本を収容した移動図書館車「あおぞら号」が4月に巡回をスタートしました。この「あおぞら号」は週4日程度、各学校など町内35カ所を巡回し、多くの子どもたちに読書の楽しさを伝え、心の豊かさを育む役割を果たしました。

積極的な交流や発信を行い さらなる町の活性化を

次の100年へ向けて新たな一歩を踏み出した1995年、佐呂間町では町の発展と活性化を目指し、国内外問わずさまざまな交流事業や発信の取り組みが行われました。6～7月には姉妹都市の提携から15周年を迎えたアメリカのパーマ市へ訪問団を派遣し、記念式典に参加したほか、現地のお祭りへの参加や福祉施設などへの訪問を通じて交流を深め、同市とより一層の友好関係を築きました。

さらに、東京でサロマ湖三町の物産をPRするイベントを開催するなど、国内の他都市とも積極的に関わりながら地域の魅力発信に努めました。

また、4月から移動図書館車「あおぞら号」の巡回がスタートし、「生涯学習の拠点」としての役割を担いながら、多くの子どもたちへ豊かな読書体験をもたらしました。「あおぞら号」は現在も町民に親しまれ、月2回の巡回を行っています。

全国のサイクリストが熱走

'95 インターナショナル オホーツクサイクリング開催

7月8日・9日の2日間で行われた「'95インターナショナルオホーツクサイクリング」で、約1500名のサイクリストたちが雄武町から佐呂間町を通り、斜里町までの212kmを駆け抜けました。佐呂間町からは60名のサイクリストが参加し、全員無事完走しました。



阪神・淡路大震災の被災児と交流

「神戸っ子・夏・オホーツク」 の取り組み

阪神・淡路大震災で被災した子どもたちに夏のオホーツクを楽しんでもらおうと、「神戸っ子・夏・オホーツク」のプログラムの一環で、19名の神戸っ子が佐呂間町内の各家庭にホームステイしました。6日間の日程で、地域との触れ合いを存分に楽しんでいました。



若い世代による未来に向けた討論

「サロマフォーラム21」 開催

4月16日、農協、漁協、商工会の青年部が異業種間の交流を図り佐呂間の未来を語り合う「サロマフォーラム21」が開催されました。当日は参加した各青年部員がスポーツ交流で心地よい汗を流し、その後の討論会では町長などを迎え活発な意見交換を行いました。



今後の国際交流への期待

パーマ市姉妹都市 提携15周年記念式典 訪問団派遣

6月14日～7月2日の日程で、姉妹都市であるアメリカ合衆国アラスカ州パーマ市へ訪問団を派遣しました。訪問団はパーマ市制60周年記念式典および姉妹都市提携15周年記念式典に出席。現地での交流を通して独自の文化や生活を体験し、友好を深めました。



スポーツで町民の健康を推進

町営テニスコート ナイター照明設置

かねてより要望のあった町営テニスコートのナイター照明が設置され、6月10日から本格的に町民に開放されました。照明時間は日没から21時まで。仕事終わりでも気軽にテニスができるので、町民の健康増進につながっています。



東京でサロマをPR

サロマ湖三町観光物産展に出展

サロマ湖三町(佐呂間町、湧別町、常呂町)合同の観光物産展が9月と10月に東京都で開催されました。サロマ湖の物産の魅力を都内の人たちに知ってもらおうと、流水の展示やホタテなどの特産物の販売などを行い、熱心にPRを行いました。





サロマの名所が一新

ピラオロ展望台
リニューアルオープン

サロマ湖の勇壮な自然とパノラマを満喫できる富士・ピラオロ展望台が4月にリニューアル。屋上は広々とした展望台となっているほか、望遠鏡や休憩室を兼ねた屋内展望室もあり、雨の日でもサロマ湖の景観を楽しむことができます。

新たな名物が誕生

樹齢100年の
黒松が
100年広場に移植

町民の庭にあった大きな奥州黒松が、道路改修などを理由として佐呂間町に寄贈されました。この黒松は樹齢推定100年と大変由緒あるもので、樹齢にちなんで100年広場に移設。佐呂間町を見守る新たな名物が誕生しました。



多彩な演奏に魅了される

文化連盟創立30周年記念
陸上自衛隊第2音楽隊演奏会

9月24日、文化連盟創立30周年を記念して陸上自衛隊第2音楽隊による演奏会が行われました。プログラム11曲の中には町民おなじみのサンパサロマなども盛り込まれ、詰めかけた260名の観客は素晴らしい演奏に魅了されていました。

勲六等瑞宝章
故 斉藤 昇 氏

昭和25年から昭和60年まで国勢調査員として8回従事された他、各種統計調査員、農業委員会委員、農業共済組合理事としても活躍。地方自治行政の振興に尽力しました。

正六位
故 久米 田鶴夫 氏

長年にわたり佐呂間町議会議員として地方自治の育成、発展に貢献された故久米田鶴夫氏に、特旨を以て正六位に叙され、網走支庁長より遺族の方に伝達されました。



テストコースが結んだ地域間交流

都農町訪問団初来町

9月6～8日の日程で、宮崎県都農町から町長を含む6名の訪問団が来町しました。都農町は佐呂間町で開設した東洋ゴム工業株式会社(現 TOYO TIRE 株式会社)の夏季タイヤテストコースがある町で、以前から相互交流を深めていたため、初訪問となった今回でより一層のつながりが生まれました。



30年の歴史を振り返る

文化連盟創立30周年
記念式典

昭和42年の結成から30周年を迎えた文化連盟の記念式典が11月3日に行われました。式典では佐呂間町の文化および文化連盟の向上・発展に顕著な功績のあった個人や団体が表彰され、永年の功績をたたえました。

10名が新たに入団

女性消防団員
誕生

4月1日、佐呂間町消防庁舎で10名の女性消防団員の入団式が行われました。彼女たちは火災予防啓発活動、独居老人・老人夫婦世帯の防火指導を中心に活躍。地域防災に貢献しました。



第1期

1996

[平成8年]

時代の変化とともに
進化を続けるまちづくり

高齢者の地域活動を支援

富富士保育所完成
(高齢者活動促進施設)

12月、富富士保育所が高齢者活動促進施設の機能を持つ新施設として生まれ変わりました。この施設は保育所としてだけでなく、地域高齢者の健康の維持・増進や、研修・講習などの多世代交流の拠点として使用することができます。



水質を保全し暮らしを豊かに

特定環境保全公共
下水道が供用開始

農村部の生活環境の改善や湖沼等の自然環境の保全を目的とした下水道「特定環境保全公共下水道」の供用が開始されました。



特産品が大集合

サロマ
大収穫祭
初開催

佐呂間町の秋の実りを集めた「サロマ大収穫祭」が10月20日に100年広場で行われ、大勢の人々が佐呂間町の特産品を求めて会場を訪れました。会場ではホタテやホッキ貝の浜焼き、カボチャ団子など旬の味覚の提供もあり、大いに賑わいました。





第1期

1997

〔平成9年〕



キャンプシーズンに最適

キムアネップ岬 キャンプ場 休憩所完成

キャンプシーズンを前に、キムアネップ岬にあるキムアネップ岬キャンプ場に休憩所がオープンしました。展望室でサロマ湖の美しい夕日を眺めることができ、シャワー室もあるので浜遊びで汚れても快適に過ごすことができます。

50年の歴史を祝う

佐中創立50周年

11月2日、佐呂間中学校創立50周年記念式典が、佐呂間中学校体育館で行われました。地域住民をはじめ同窓生ら約140名が出席し、創立からの歴史を振り返るとともに、全校生徒約180名による合唱で節目の年を祝いました。



町民待望の広場が完成

富富士農村広場オープン

10月7日、富富士に農村広場がオープンしました。農村広場はゲートボール場1面、パークゴルフ場9ホールを有する地域交流の場です。オープン式では完成したばかりのフィールドでパークゴルフ大会が行われました。

開館から861日目に達成

「スター」利用者10万人突破

1994年にオープンした武道館温水プール「スター」の利用者が、10月に10万人を突破しました。開館から861日目の達成です。過去の1万人(100日目)、5万人(457日目)よりもハイペースな達成となり、町民の利用率の向上がうかがえます。



町民のニーズに応え 住みよい地域を目指す

国内大手証券会社の経営破たんや橋本改造内閣の発足、アジア通貨危機など国内外で重大な出来事があった1997年は、国民の社会不安が強まった時期でもありました。佐呂間町では年々多様化する町民のニーズを的確にとらえ、安心・安全で豊かなまちづくりを実現するため、さまざまな事業が推進されました。農山村振興等農林漁業特別対策事業による富武士農山村広場や、川西住民のコミュニケーションを活発化する川西公民館、観光資源の充実を図るキムアネップ岬キャンプ場休憩所など、この年に多くの新施設が誕生。町民の期待に応える地域の拠点が増えました。また、姉妹都市であるパーマ市とは引き続き更なる友好を深めたほか、「氷上の格闘技」と呼ばれるブルームボールの世界選手権でカナダへ遠征するなど、国際的な交流も積極的に行われました。

姉妹都市との友好深まる

パーマ市長来町

9月30日～10月6日の日程で、姉妹都市であるアメリカのパーマ市から市長のヘンリー・グィノーテ氏が来町しました。滞在期間中は町内各施設を訪問し、宿泊先のホストファミリーのもとで生活。佐呂間町や日本文化について理解を深めていました。



世界トップレベルを肌で実感

第2回ブルームボール 世界選手権

11月4日～9日にかけて、カナダで第2回ブルームボール世界選手権が開催されました。9カ国30チームが参加した今大会では、佐呂間町の選手6名も日本代表として出場し、ブルームボールの技術向上と世界各国の人々と交流を深めました。



川西に新しい活動拠点が完成

川西公民館 落成記念式祝賀会

1996年から進められていた川西公民館の新築工事が完了し、1月26日に落成記念式祝賀会が行われました。道路改良工事に伴い建て替えを進めていたもので、完成後は地域住民のコミュニケーションの場として広く活用されることになります。

約700戸が利用可能に

下水道本格稼働



3月末から供用開始された下水道汚水を終末処理する下水道管理センターの通水式が9月10日に同センターにて行われました。当時の時点で、約700戸で下水道を利用することができ、約1200戸が水洗化されました。

認知症の方々の支援を強化

デイ・サービスセンター E型「しらぎく」オープン

厚生病院の看護師寮として使用していた建物を改修し、認知症の方々を対象としたデイ・サービスセンターとして整備しました。ボランティアの協力も得ながら、送迎、給食、生活指導、入浴などの各種サービスを提供します。



校訓碑も同日にお披露目

佐呂間高校創立50周年記念



10月18日、佐呂間高校創立50周年記念式典が行われました。同日に創立50周年記念事業協議会から贈られた校訓碑の除幕式も行われ、公募した校訓の中から山口前校長の「郷湖大地に学び自らの道を拓け」が採用となりました。

故郷サロマへの想いを語り合う

若栄会発足30周年記念

1月15日、若栄会発足30周年記念式典が東京都で開催されました。当日は50名の会員が出席し、来賓とともに現況についての報告や故郷の思い出、故郷と東京の架け橋となるべく決意表明などが行われました。



道路・河川・産業に大きな被害

台風5号により町内に被害

8月28日から29日にかけての停滞前線による大雨、9月16日から17日にかけての台風5号の影響で、河川の増水に伴い道路の決壊、家屋への浸水、農地への冠水など町内に大きな被害がありました。

町民待望の施設が続々誕生

若佐農村公園オープン・若里活性化センター完成

3月29日に栄地域交流センター、10月11日に若佐コミセン裏に若佐農村公園が完成。また11月15日には若里地区に若里活性化センターが完成しました。これらは地域住民のコミュニケーションや地域活動に活用されます。



全国に魅力発信！

第1回サロマ湖フォトコンテスト

北海道で一番大きな湖「サロマ湖」をメインとした第1回サロマ湖フォトコンテストが開催されました。サロマ湖を訪れ、サロマ湖の魅力を感じ、何気ない一コマを写した写真を広く公募し、サロマ湖の様々な顔を全国に発信しました。



第1期

1998

[平成10年]

国内では長引く不況や首相交代によって国民の不安が慢性化していた1998年、佐呂間町では入植以来の少雪や融雪期の遅れ、二度にわたる台風被害など異常気象に悩まされる一年となりました。特に台風5号は佐呂間町の道路や家屋に重大な被害をもたらしただけでなく、農地への冠水などによって畑作に深刻な影響を及ぼしました。

町民の頭を悩ませる出来事が相次ぐ一方で、町にはさまざまな新しい施設が誕生し、明るいニュースを届けました。サロマ湖の観光の拠点となる物産館「みのり」のほか、栄地域交流センター、若佐農村公園、若里活性化センターといった地域住民の交流を促す施設が続々オープン。またデイ・サービスセンターE型「しらぎく」や産業廃棄物処理施設といった福祉関連・産業関連の支援施設も完成し、町民の期待を集めました。

政治経済の激動や異常気象の中で
町の拠点が次々と誕生し活気づく



サロマ湖に新たな観光拠点

物産館「みのり」オープン

休憩所や体験農園を併設した物産館「みのり」が4月25日にオープンしました。サロマ湖を訪れる人たちへの情報発信や地域住民とのコミュニケーションの場として期待が込められ、4月26日には盛大なオープニングイベントも開催されました。



高齢社会を見据えた施策

ケアハウス「サンガーデンさろま」開設



ケアハウス、デイサービスセンター、在宅介護支援センターを併設した「サンガーデンさろま」が1月8日に落成式を行い、11日から入居者の受け入れを開始しました。特に高齢者の自立した生活を支援する住まい「ケアハウス」は当時大きな注目を集めました。

剣士の育成にも意欲

佐呂間で唯一の七段剣士誕生

永代町の山口光友さんが佐呂間で唯一の七段剣士に合格しました。全道はもちろん全国大会にも出場経験のある山口さんですが、七段はアマチュアでは最高位の段で非常に難しく、七回目のチャレンジで悲願を達成しました。



安心して子育てできる町へ

佐呂間保育所
乳児保育開始

4月から佐呂間保育所で生後6カ月を過ぎた乳児を預かる乳児保育をスタートしました。新しく乳児室を改造し、沐浴室や調乳室を設置。ミルクや離乳食も準備し、働く保護者をサポートします。

約60名のメンバーで結成

よさこいチーム「亜母羅子」
浜佐呂間に結成

3月、浜佐呂間によさこいチーム「亜母羅子（あもらす）」が誕生しました。約60名のメンバーで毎週水曜に練習を行い、地元浜佐呂間小中学校の運動会やUHBサマーフェスティバルで踊りを披露するなど、積極的に活動していました。



見やすく、コンテンツも充実

佐呂間町
HPリニューアル

1996年に開設された佐呂間町のホームページが新しく生まれ変わりました。町の概要や施設紹介、イベント、宿泊情報、特産品、町広報などさまざまな情報を盛り込み、従来よりも読みやすさ、親しみやすさがアップしました。



開拓の歎から100年の歳月

知来開基100年、
知来小学校開校
95周年記念式典

11月13日、知来開基100年および知来小学校開校95周年記念の式典が行われました。華やかなオープニングセレモニーに始まり、多彩な分野で知来の発展に貢献された方々の表彰が行われ、小学校の校庭に記念碑も建立されました。



第1期

1999

[平成11年]

1999年、社会は大規模災害や中堅銀行の倒産など大きな混乱に見舞われました。

佐呂間町も異常気象の影響で農業、漁業といった町の基幹産業が打撃を受けましたが、行政と関係者の努力によって苦境の中でも堅実な成果を残しました。

また、地方分権の推進や情報化、高齢化などの時代の流れを受け、佐呂間町の行政機構改革が行われました。地方自治体として自主的・主体的に決定し処理することができ分野の拡大が期待され、大胆な人事も施行されました。

さらに、高齢者を支援するケアハウス「サンガーデンさろま」のオープン、環境問題を意識した資源ごみの分別開始、働く親を応援する佐呂間保育所乳児保育開始、町のホームページリニューアルなど、時代の変化を感じさせるニュースもこの時期に増えています。

情報化や環境保全など
時代の転換期に対応

46年間の歴史に幕

幌岩中学校閉校

3月7日、幌岩中学校の閉校式と惜しむ会が行われました。当日は在校生や同窓生、地域の方々など200名以上が集まり、これまでの歴史を偲びました。幌岩小学校卒業生は佐呂間中学校へ通うことになりました。

環境への取り組み

資源ごみの
分別開始

10月から遠軽地区7カ村において、共同で資源ごみの分別収集が始まりました。空き缶や空き瓶、ペットボトル、発泡スチロール、紙パック、段ボールといったごみが対象となり、リサイクルの考え方が広まってきました。



課・係の名称、業務内容を改正

行政機構改革

佐呂間町はさらなる住民サービスの向上と事務効率を図るため、7月1日をもって行政機構改革を行いました。分割・統合によって「町民課」「保健福祉課」「企画財政課」が誕生したほか、係の名称や業務内容も一部改正されました。





町民の憩いの場として

屋内ゲートボール場「ホイトドームさろま」完成

6月14日に、屋内ゲートボール場「ホイトドームさろま」の落成式が行われました。幅約30m、奥行き約52m、高さ15mでアリーナ部はゲートボールコートを2面取れる面積があり、フットサルやテニスなども行えます。



第1期

2000

〔平成12年〕

シドニーオリンピック・パラリンピックやアメリカおよびロシアの大統領選挙、小渕首相の急逝に伴う森内閣誕生、沖縄サミットの開催など、世界が注目する出来事が多くありました。

国内の自然災害では有珠山と三宅島が噴火、鳥取西部で大地震が発生。国民の生活に大きな混乱をもたらしました。

そんな波瀾の2000年において、佐呂間町は基幹産業である農業・水産業に関しては堅調を維持し、町が計画した事業も順調に進みました。

また、人口減少・高齢化という課題を抱えつつも、安心して住み続けられるまちづくりを目指す総合介護条例の制定や、新たな特産品となるかぼちゃのお酒「サロマの琥珀」の販売開始といった果敢な取り組みを実施。多様化するニーズに応え、さまざまな可能性を切り拓く一年でもありました。

地域の課題に向き合いながら 多角的に活性化の可能性を探る

安心して暮らせる高齢社会

介護保険制度がスタート

4月から介護保険制度がスタートし、佐呂間町では200名以上の方が要介護と認定され、それぞれケアプランに基づく介護サービスの利用が開始されました。町内で受けられないサービスについても、気軽に相談できる窓口を設けるなど環境を整備しました。



記念式典と祝賀会を開催

パーマ市姉妹都市提携20周年

2000年に20周年を迎えたパーマ市と佐呂間町の国際交流を記念し、7月20日に「姉妹都市提携20周年記念式典」が行われました。式典にはパーマ市から市長をはじめとする総勢22名が出席。式典終了後は祝賀会が催され、大いに盛り上がりました。



風雪に耐え教育の礎を築く

栄小学校開校90周年

明治43年の開校以来90周年を迎えた栄小学校で、11月に「開校90周年記念式典」が行われました。校庭には90周年を記念した記念碑が建立され、式典には歴代の教職員やPTA会長など多くの功労者が参加し終始和やかなムードで節目を祝っていました。



新たな特産品に期待

かぼちゃのお酒「サロマの琥珀」販売開始

かねてより製品化を進めていた佐呂間町のかぼちゃを100%使用したお酒「サロマの琥珀」が販売開始。試作を何度も繰り返し熟成された味は、完熟かぼちゃと長野県安曇野の澄んだ清水がミックスされ上品なワイン風味に仕上がりました。



4隻目の操業船

佐呂間漁組に新造船

佐呂間漁業協同組合では、もともと3隻の操業船を所有していましたが、新たに「第58さろま丸」が加わりました。漁に影響する有害生物の駆除や漁場底質調査などでの活躍が期待され、導入後は佐呂間町の漁業の発展に貢献しました。



勲五等瑞宝章

故 福田 幸教 氏

昭和22年から昭和52年まで、若佐村及び佐呂間町(村)議会議員として在籍。農業委員会委員、町監査委員、農業協同組合長理事としても活躍され、本町の発展に尽力しました。



勲四等瑞宝章

故 内藤 義明 氏

昭和23年から佐呂間中学校、佐呂間高校定時制を経て標津高校校長を退職するまで、35年にわたり教育一筋に活躍。特に定時制教育に情熱を注がれた功績が認められました。



勲五等瑞宝章

故 片平 俊男 氏

昭和40年から24年にわたり佐呂間町議会議員として在職し、この間、議長としても尽力。その他、産業工常任委員会委員長、社会文教常任委員会委員なども務めました。

会員の親睦と故郷との交流

東京サロマ会創立10周年

佐呂間町出身者および関係者で構成している東京サロマ会が10周年を迎え、2月25日に東京プリンスホテルで記念式典を開催しました。東京サロマ会は毎年の総会・新年会、秋の「物産販売」出展など東京と故郷をつなぐ活動を行っています。



事故を受け再発防止へ

ルクシ峠崩落事故発生

10月4日に、佐呂間町と北見市端野町を結ぶ国道333号線の途中にあるルクシ峠において、北見側の麓(北見市北陽)で土砂崩れが発生し、乗用車1台が土砂に埋もれ2名が死亡する痛ましい事故が発生しました。



北海道新聞2001年10月6日掲載

住み良い環境づくり

漁業集落排水施設スタート

すでに着手された浜佐呂間地区に続き、富武士、若里地区で漁業集落排水事業の実施設設計が着手されました。さらに、下水道整備計画区域外の合併浄化槽の普及に取り組み、住民の生活環境保全に努めました。



環境への取り組み

家電リサイクル法施行

4月1日から家電リサイクル法が施行されました。これはテレビ・洗濯機・冷蔵庫・エアコンという特定家庭用機器廃棄物から有用な部品や材料をリサイクルし、廃棄物を減量するとともに、資源の有効利用を推進するための取り組みです。



第1期

2001

[平成13年]

国内外で重大な出来事が相次ぎ 佐呂間町にも影響を及ぼす

2001年はアメリカ同時多発テロ事件など世界に衝撃を与えるニュースが相次いだ一年で、国内では高支持率を維持する小泉内閣の発足や環境への取り組みを強化する家電リサイクル法の施行などの出来事がありました。

佐呂間町に関連したニュースではルクシ峠崩落事故の発生や、国内で初のBSE(狂牛病)の発症が佐呂間町で生産された牛であったことが報じられ、世間を賑わせることとなりました。

特にBSE問題は真相が定かでないまま報道が加熱したことで、佐呂間町に深刻な風評被害がもたらされました。

一方で、21世紀の幕開けにあたり第三期佐呂間町総合計画が策定され、地域づくりの課題として人口、福祉、環境、教育、産業、行政の分野において、新たな時代へ向かって町民が一丸となって取り組むべき目標が示されました。

日本の「食の安全」を問い直す

佐呂間町の生産牛から国内初のBSE発生

9月10日、国内で初となる牛海綿状脳症(BSEまたは狂牛病という)を千葉県で確認。その牛が佐呂間町で生産されたことが分かりました。その後の国の対応を含め「食の安全」を揺るがす重大な問題として国民の関心を集めました。



北海道新聞
2001年9月13日掲載



朝日新聞
2001年9月12日掲載

町民同士が助け合う

さろまコミュニティサポート設立

4月11日に佐呂間コミュニティセンターで「さろまコミュニティサポート」の設立式が行われました。この組織は「ささえあい、たすけあい」をコンセプトに、佐呂間町内での結婚式や葬儀の手伝いなど地域課題に向き合い、サポートを行います。



勲五等瑞宝章（自治功労）

故 室井 四郎 氏

昭和40年から32年にわたり、佐呂間町議会議員として尽力。この間、社会文教委員長、佐呂間町監査委員などを歴任した他、農業協同組合理事も務めました。



勲五等双光旭日章正六位

故 西 喜作 氏

佐呂間町議会議員、議会議長を務め、長年にわたり地方自治の育成に貢献された西喜作氏に勲五等双光旭日章正六位が授与され、遺族の方に伝達されました。



勲六等单光旭日章

故 石川 昭治 氏

永きにわたり消防団員（42年間）とし、分団長等の要職を歴任され、団員の指導や火災予防思想の普及にご尽力され、地域住民の安全と福祉の向上に努められました。



より一層の安全な航行を

富富士漁港 灯台新設

7月23日、富富士漁港に念願の灯台が新設され、記念セレモニーが開かれました。港を入出港する船舶の航行安全の指標として期待が寄せられるとともに、地域住民に親しまれる灯台として願いを込め、富富士小学校6年生からの記念プレートが掲げられました。



7年間で41,318km

西田義雄氏 徒歩で地球1周達成

7月13日、西田義雄さんが徒歩で地球一周の長さ以上の41,318kmを達成しました。平成8年1月から歩き始めた西田さんは、JR遠軽駅、留辺蘂町瑞穂、佐呂間町栄などをコースに一日平均40km、1カ月平均600km、1年平均で6,000kmを歩き続け、見事成し遂げました。



町技で心地よい汗を流す

第1回町長杯 ソフトボール大会 開催

7月14日、佐呂間町ソフトボール場で第1回町長杯ソフトボール大会が開催されました。町技であるソフトボールを通して親睦を深めるために開催されたもので、参加は5チーム約100名が集まり、白熱した試合が繰り広げられました。



第1期

2002

〔平成14年〕



進む環境配慮、変わる町民の暮らし 次世代へ向けた取り組みも活発に

日韓共催サッカーワールドカップ開催で国民が熱狂した2002年。一方で国内はデフレ不況に陥り、イラク情勢や北朝鮮の核問題・拉致問題など国際情勢も緊迫した一年でした。

佐呂間町では、法律改正によって一般ごみの細かな分別がスタート。これまで町の一般ごみを処理していた焼却炉は、新たに定められた厳しい構造基準に適応できなくなるため終了。燃えるごみは遠軽町の焼却炉で処理されることに決まりました。加えて「プラマーク」の施行により「その他プラスチック類」が分類に加わり、リサイクル資源をしっかりと分別するよう町民への周知徹底がなされました。

また、全国各地域において市町村合併問題の論議が活発になったのもこの時期です。佐呂間町も例外ではなく、周辺市町村と合併パターンを模索・検討を開始していました。

国道333号の難所を克服

高規格遠軽北見道路「旭野トンネル」 開通

高規格自動車専用道路「遠軽北見道路」が2002年に開通。その一部分となる「旭野トンネル」（国道333号旭峠道路・遠軽町生田原安国～佐呂間町栄）も翌年春に開通しました。これにより急勾配とトンネル高さ制限の難がある旭峠を通る必要がなくなり、利便性が向上しました。



リサイクル資源の細分化へ

一般ごみの分別スタート

9月1日から、ごみの分別・収集方法が変わりました。燃やすごみ、燃やさないごみのほか、リサイクル資源の分別も現在の8種類に加え、ペットボトルのキャップなどプラマークが付いた「その他プラスチック類」が新たに加わりました。



法律改正により大幅変更

一般ごみ焼却終了

これまで各家庭から出される一般ごみは混合のまま収集し佐呂間町の焼却施設で焼却、埋め立て処理を行っていましたが、12月1日からの法律改正にともない、町内での焼却処理は終了。今後、燃えるごみは遠軽町の焼却炉で処理することになりました。





役所の手続きがスムーズに

住民基本台帳 ネットワークシステム稼働

住民基本台帳法の改正により、8月25日から住基ネットシステムの第2次サービスが始まりました。住民票の写しの交付が全国どこの市区町村でも可能になり、転入転出の手続きがスムーズになるなど、暮らしの利便性が向上しました。



4月1日より分譲開始

西富地区勤労者 住宅用地分譲開始

勤労者などの持ち家を促進し、人口の定着と地域の活性化を図るため、前年から定住促進団地の造成を進めてきましたが、この度造成が完成し、4月1日より分譲が開始されました。全23区画、面積は460.72～493.94㎡です。

町職員も袋詰めに参加

佐呂間漁組がホタテを全戸に配布

佐呂間漁業協同組合では、世界でくらい話題が続く、浜でも漁価が低迷している中、町民に明るい話題を提供し、浜に活力をつけようと、1戸あたりホタテ15枚の配布を行いました。約10tのホタテが用意され、各自治体の手で各家庭に配布されました。



藍綬褒章

故 鈴木 幸一 氏

49年の長きにわたり国勢調査をはじめ、62回に及ぶ各種統計調査に従事され、地域における統計の発展に尽くした功績が認められました。

遠軽7カ町村で一齐に

ごみの有料化開始

ごみの減量化とごみ処理施設の延命を図るため、焼却施設の維持管理費などごみ処理に係る経費の一部を住民が負担する「ごみ処理の有料化」が遠軽7カ町村でスタートしました。料金は指定のごみ袋を購入する形で支払います。



第1期

2003

[平成 15 年]

3町合併を検討する流れが本格化 町の未来について考えるきっかけに

この年の佐呂間町民の大きな関心事は、佐呂間町・湧別町・上湧別町の合併に関する検討が開始されたことでした。法定協議会が設置され、課題や今後の見通しについて深く議論が交わされるとともに、「協議会だより」や合併検討会のホームページ開設、意見箱の設置といった住民へのアプローチも活発化しました。

また、町内の小中学校再編成に向けて、統合やスクールバスの運行など本格的に議論が始まり、地域のあり方や未来について考えるきっかけとなる一年でもありました。

町の基幹産業である漁業は好調で、ホタテや秋鮭、ホッカイシマエビなどの安定した水揚げが記録されています。

町の外へ目を向けると、海外では米英軍によるイラクへの攻撃が開始され、自衛隊のイラク派遣が決定。北海道では初の女性知事誕生、十勝沖地震などが話題となりました。

まちの未来をみんなで考える

佐呂間町・湧別町・上湧別町で 合併協議会設立

佐呂間町・湧別町・上湧別町の合併問題についてはこれまでも調査や検討が行われてきましたが、さらに深く進めるために法定協議会を設置することが決まりました。12月8日に設置調印式が行われ、今後は「協議会だより」の発行などで協議内容が住民へ公開されます。

長きにわたり
佐呂間に尽くす

名誉町民 船木長一郎氏 逝去

7月11日、佐呂間町の名誉町民であり、町の自治の進展に尽くした船木長一郎氏が逝去されました。船木氏は昭和16年に佐呂間村役場に奉職し、昭和29年に町長に初当選。若佐村との合併を実現したのち新町の初代町長に就任し、北海道で最長の33年にわたり町政に尽くしました。



訪問団 20 名がパーマ市へ 姉妹都市提携 25 周年

7月、米国アラスカ州パーマ市において姉妹都市提携25周年を祝う記念式典が開催。佐呂間町から、町長をはじめとする20名がパーマ市を訪問し、両市町の交流の節目を祝うとともに、限らない友好と益々の発展を祈念しました。



両市町の友好発展へ

パーマ市から クーパー市長が来町

6月3日、姉妹都市パーマ市からジム・クーパー市長が来訪。9日の滞在期間中、町議会や農協、漁協など町内経済団体をはじめ公共施設などの視察を行いました。7月の記念式典参加を前に友好を深めることができました。



第2期

2004

〔平成16年〕

地域の将来展望の実現へ向け 住民自治の原点に立ったまちづくり

2004年の日本列島は、自然災害が例年になく多発し多くの被害を各地に及ぼしました。

佐呂間町では1月、百年に一度と言われる大雪に見舞われたものの、1年間を通しては気象条件に恵まれ、基幹産業である農業や漁業において安定した生産を見ることができました。

開基110年の節目の年、今後の町の将来を決定する市町村合併の議論が、佐呂間町・上湧別町・湧別町による法定協議会で実施。21世紀における地方自治体のあり方が協議されました。また、本町と米国アラスカ州パーマ市の姉妹都市提携25周年を祝う記念式典が、パーマ市において開催。町長をはじめ20名が式典参加のため現地を訪問しました。

この年、堀町長の任期満了に伴う佐呂間町長選挙が9月に実施。現職の堀氏以外に立候補者の届け出がなく無投票で再選、5期目が始動しました。

1973 年以來の快挙

役場野球部、 全国大会出場決定

7月17日から19日、遠軽町で開催された「高松宮賜杯全日本軟式野球大会1部・北海道大会」で役場野球部が初優勝を果たしました。野球部は創部以来初の全国大会出場で、遠軽支部からの全国出場は1973年以來の快挙でした。



100 年に一度の豪雪

大雪・暴風雪 猛威をふるう

1月13日から16日にかけ、猛烈に発達した低気圧が網走管内を襲い各地に影響をもたらしました。今回の大雪は100年に一度の豪雪といわれ国道238号、333号で通行止め、JRも運休となり交通機関が混乱。佐呂間町でも積雪が164cmと観測史上最高の記録となりました。



大型車両も通行できる

新しい 富美橋が完成

老朽化により2003年から架け替え工事が実施されていた富美橋が完成。10月1日の開通式では、地区在住の家族三代による渡り初めが行われました。新しい富美橋は全幅が8mで、大型車両もスムーズに通行できます。



瑞宝 単光章

長屋 軍次 氏

佐呂間町消防団第三分団長、副団長を歴任し、40年にわたり消防使命達成に尽力し、地域住民の民生安定に寄与。消防功労・功績が認められ授賞となりました。

医師派遣が困難に

町立若佐診療所が閉所

5月31日、若佐診療所が閉所となりました。昭和29年、病床数6床で診療を開始し、その後、佐呂間町国保診療所若佐分院となり、昭和32年には病床数19床に増床。昭和47年に休止後、昭和53年より町立若佐診療所(無床)として診療を担うも、医師派遣や通院患者数の減少などから閉所となりました。

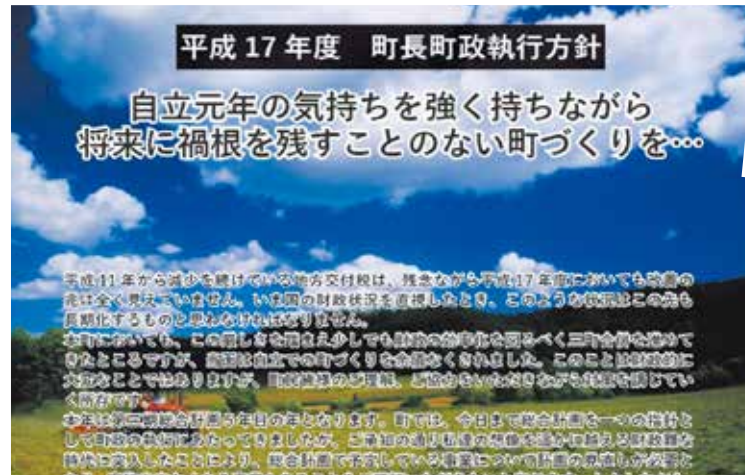




第2期

2005

〔平成17年〕



全国初の幼保一元化へ

新佐呂間保育所 オープン

既存施設の老朽化に伴い改築工事が進められていた佐呂間保育所が完成し8月1日にオープン。一時保育事業もスタートしました。いきいき子育て特区の認定を受け、翌年には佐呂間幼稚園の園児も受け入れ、全国初の幼保一元化が実現。

富士の自然と過ごした思い出を胸に

富富士小学校、 閉校記念に壁画

学校再編に伴い閉校する富富士小学校では、閉校記念の一環として「富富士小学校ありがとうプロジェクト」を編成。体育館の壁一面に「富士の自然」をテーマに絵を描き思い出を残そうというもので、牧場の風景やサロマ湖の生き物が描かれました。



佐呂間保育所に併設

子育て支援センター開設

新佐呂間保育所には子育て支援センターが併設されました。育児相談にのったり育児情報を提供したりと子育てのサポートを行います。ネーミングは町民に公募し、選考の結果「あいあい」に決定しました。



記念式典が開催

若佐地区開基・ 若佐小学校開校 100 年

11月20日、若佐地区開基・若佐小学校開校100年を祝う記念式典が開かれました。若佐小学校で記念碑の除幕が行われた後、式典が開催。同校児童が校歌を斉唱、引き続き行われた祝賀会ではゆかりの方々か踊りや歌を披露し、100年を祝いました。



学校再編を前に

最後の運動会が 各地区で開催

5月末から6月中旬にかけて、翌年の町内小中学校の再編事業による学校統合を前に、各地区の学校(仁倉小学校、若里小学校、幌岩小学校、佐呂間小学校、知来小学校、栄小学校、若佐小学校、富富士小学校、浜佐呂間中学校、若佐中学校)で閉校記念の運動会が催されました。



郵政民営化による衆議院解散総選挙が行われ、自民党圧勝のもと小泉内閣が再スタートし、年金制度改正、介護保険制度一部改正、自動車リサイクル法のスタートなど、さまざまな行政改革が進められた2005年。

国の厳しい財政状況の中、地方財政の効率化を図るべく進めてきた佐呂間町、上湧別町、湧別町の三町合併が破綻となりました。国は4月以降も新たな制度により引き続き市町村の合併を推進、合併に関する基本指針を提示。その中で、佐呂間町は当面自主・自立のまちづくりに向けて舵を切り直しました。

幼保一元化を予定している新佐呂間保育所の完成とともに子育て支援センターが開設し、町の新しい保育体制がスタート。翌年小中学校の再編事業による学校統合も控え、町内の各地区では最後の記念行事が実施されました。



佐呂間町・上湧別町・湧別町

住民投票により 三町合併破綻

2月20日、「佐呂間町が上湧別町・湧別町と合併することの可否に関する住民投票」は同日開票されました。投票結果は、佐呂間町は賛成2,130票、反対1,654票で「賛成」に決まりましたが、湧別町は「反対」が多数を占め、三町合併は見送られました。

北海道新聞
2005年2月21日掲載

三町の法廷合併協議会は新町名や新庁舎役場位置などを決定し全協議項目を終了しており、投票結果を受けた堀次郎佐呂間町長は会見で「長い時間協議していただけに残念」と、落胆の表情を見せました。



第2期

2006

[平成 18 年]



自然災害や全町的な学校再編など 困難と課題に立ち向かった一年

2006年の佐呂間町は、例年になく苦労に見舞われた年でした。10月の低気圧による豪雨は町の有史以来の降雨量を記録。その被害は全町に広がりしました。

さらに11月、若佐地区に発生した竜巻による被害は、9名の犠牲者と30名を超える負傷者を出し、多くの建物が損壊するという大災害となりました。

また、この年は全町的な規模での学校再編が行われました。町内に11校あった小中学校が、中学校1校、小学校3校に再編され、相次いで閉校式が執り行われました。これは、少子化の影響による児童生徒数の減少を鑑み、子どもたちの教育環境を守るための取り組みです。

町の外では、北海道夕張市の財政再建、全国各地の「いじめ」問題など人々に衝撃を与えるニュースが頻発。日本経済も厳しい状況が続く中、佐呂間町は住民の理解や協力を得ながら、山積する町の課題と実直に向き合い続けました。

トンネル工事関係者が犠牲に

若佐竜巻災害発生により死者9名

11月7日、町内若佐地区において最大瞬間風速50～69mと予測される国内最大規模と思われる竜巻が発生。新佐呂間トンネル工事関係者9名が死亡、工事関係者および若佐地区住民30名以上が重軽傷を負うという、佐呂間町始まって以来の大惨事災害となりました。



計 11 校が歴史に幕

町内小中学校の再編事業により学校統合

平成18年度の学校再編に伴い、佐呂間町内の小中学校計11校がその歴史に幕を下ろすこととなりました。その背景には少子化の影響による児童生徒数の減少があります。若佐中学校・浜佐呂間中学校が佐呂間中学校に統合され、小学校は栄・若佐学区が「新若佐小学校」に、佐呂間・知来・仁倉・富士・若里学区が「新佐呂間小学校」に、幌岩・浜佐呂間学区が「新浜佐呂間小学校」に再編されます。これに伴い、スクールバスの運行も開始されました。



最後の卒園式・修了式

佐呂間幼稚園が閉園

3月17日、最後の卒園式・修了式が行われ、佐呂間幼稚園が33年の歴史に幕を閉じました。これまで約950名もの卒園生が巣立った同幼稚園。式は、園児たちが元気いっぱい最後の幼稚園歌を歌い、たくさんの思い出を胸に卒業していきました。

道路や住宅、農地に被害拡大

低気圧前線の停滞により記録的豪雨、初の避難勧告発令、河川氾濫水害発生

10月7日から9日までの低気圧による大雨と強風により、町内に甚大な被害をもたらされました。床上浸水11戸、床下浸水63戸、下線・道路・橋梁等の決壊破損は103カ所にも及びました。また、農地の冠水も広範囲に至り、農業や漁業にも被害が出ました。



下水道汚泥やホタテのウロを処理

S&K 環境ワクチンセンター 佐呂間事業所が完成



10月24日、「S&K環境ワクチンセンター佐呂間事業所」が施設稼働し、落成式が行われました。この施設は町が企業誘致を進め共和加工株式会社が若里に建設。YM菌と呼ばれる超高温好気性細菌を使い、下水道汚泥やホタテのウロなどを高温で発酵処理します。



旭日単光章

故 中谷 繁孝 氏

永きにわたり町議会議員（20年間）として町議会の円滑な運営にご尽力され、地方自治の育成発展に努められました。



特旨叙位（従六位）

故 福田 幸教 氏

永きにわたり町議会議員（26年間）として町議会の円滑な運営にご尽力され、地方自治の育成発展に努められました。



特旨叙位（正六位）

故 齊藤 公男 氏

昭和44年から32年間佐呂間町議会議員として在職し、地方自治の発展に尽力したことで平成14年に勲五等双光旭日章を受章。今回の特旨叙位は遺族の方に伝達されました。

第2期

2007

[平成 19 年]



不安定な社会情勢の中で 災害復興や新たな取り組みに尽力

2007年を振り返ると、世界的にはイラク戦争の影響で燃料価格の高騰による経済不安が呼び起こされ、その長期化に突入しています。国内では小泉内閣から安倍内閣へと移ったものの、参議院議員選挙において与野党逆転の結果となり、「ねじれ国会」と呼ばれる事態に。その結果、議論が進まず国政が停滞し、国民に不満が広がりました。

佐呂間町の2007年は、前年に発生した低気圧災害、竜巻災害についての復興作業はほぼ完全に近い状態までたどり着き、被災地域の住民の生活にも安心がもたらされました。

また、新佐呂間トンネルの貫通や小中学校での学校給食開始など、町として長年進めてきた取り組みが形となった年でもあります。さらに、近年深刻化する高齢運転者の交通事故防止対策にも、いち早く取り組みを開始していました。

食育や地産地消を目的に

小中学校 学校給食スタート

2月20日に学校給食センターが完成し、4月9日から学校給食がスタートしました。子どもたちが正しい食生活を身につけ、生活習慣病の予防やふるさとへの理解、地産地消にもつなげていきたいという目的から実現したものです。



旭日単光章
故 林 俊彦 氏

永きにわたり町議会議員(16年間)として町議会の円滑な運営にご尽力され、地方自治の育成発展に努められました。



瑞宝単光章
故 村岡 和義 氏

佐呂間町消防団第二分団長、副団長を歴任し、36年にわたり消防使命達成に尽力。地域住民の民生安定と福祉の向上に寄与された功績が認められました。

安全確認、しっかりと

各小学校、 若佐保育所 交通安全教室

交通ルールを身につけるとともに、交通事故に注意する意識を高めるため各小学校、保育所で交通安全教室が行われました。若佐保育所では、保育所前に仮設の交差点を設置し、横断歩道の渡り方も勉強。子どもたちの交通安全への意識を高めました。



高齢者の交通事故防止へ

佐呂間町 シルバードライバーズクラブ結成

高齢運転者による交通事故や交通死亡事故の割合が増加していることなどから、佐呂間町老人クラブ連合会が主体となり、「佐呂間町シルバードライバーズクラブ」が設立されました。結成式には65歳以上の運転者約100名が参加し、実演指導などを受けました。



長年の功績に町から表彰状

佐呂間町納税貯蓄組合 連合会解散式

3月29日に佐呂間町納税貯蓄組合連合会の解散式が挙行され、その功績に対し町より表彰状が授与されました。同組織は昭和37年の設立以降、租税の自主納税体制の確保と納税道義の高揚に向けた活動を通じて、安定的な収納体制の維持に多大な貢献をしてきました。



住民と町政を結ぶ架け橋として

広報「サロマ」600号

この年の10月号をもって、広報「サロマ」は600号を迎えました。昭和26年3月の初回発行からおよそ50年以上にわたり、町の歩みとともに歴史を刻み、まちの情報を伝え、町政と住民を結び役割を担ってきました。



トンネル開通を記念して

新佐呂間トンネル貫通

平成21年3月の供用開始に向け「新佐呂間トンネル」の工事が進められる中、9月14日貫通式が行われました。この貫通を記念し、町体育協会がトンネルウォーキングを企画。子どもから大人まで約100名が参加し、トンネル内約4kmを歩きました。



哀悼の意を改めて

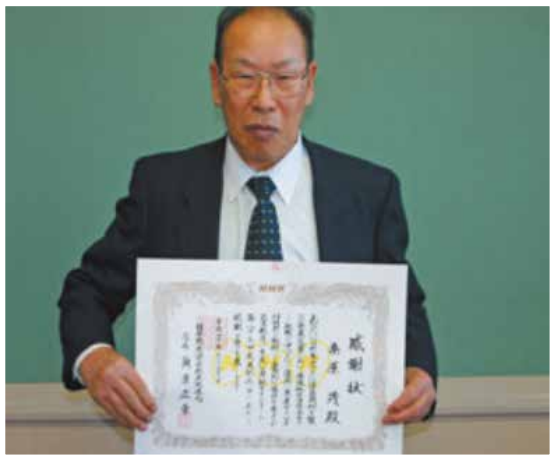
高橋知事 慰霊之碑に献花

8月5日、高橋はるみ北海道知事が「まちかど対話」のため遠紋地域を訪問。その際、若佐地区の竜巻災害被災者の慰霊之碑に立ち寄り、献花と黙祷を捧げ、故人のご冥福をお祈りされました。

NHK の取材に全面的な協力

竜巻災害で自治会長感謝状

若佐地区を襲った竜巻災害において、若佐地区自治会長としてNHKの取材にも全面的な協力を寄せられ、災害報道に多大な貢献をなされたことから、3月21日の放送記念日に感謝状が贈られました。



協働のまちづくりへの想い

町長選川根章夫氏当選で新町政スタート

8月24日に行われた佐呂間町長選挙により川根章夫氏が新町長に就任。9月12日の就任のあいさつでは「真に町民が何を求め」「次世代に引き継ぐものは何か」を念頭に、行政と町民が丸となって協働のまちづくりを進めていきたいという想いが語られました。



70年の歴史に幕

佐呂間医院が閉院

昭和6年に開院した菊池病院を前身とする、佐呂間医院が11月、閉院となりました。佐呂間医院は昭和12年、病床数19床で診療を開始。以降、約70年にわたり、町民の健康を支えてきました。



民間レベルで交流を促進

パーマ市との姉妹都市交流委員会

姉妹都市であるアラスカ州パーマ市との友好と親善を促進するため、ボランティアによる姉妹都市交流 委員会を設立。平成22年に姉妹都市交流30周年を迎えるため、民間レベルの委員会が組織されました。



第2期

2008

[平成 20 年]

「郷土佐呂間町を住みよい町」に 新たな町政を進めていく

2006年に大きな被害を出した若佐竜巻災害の復旧作業は、町民をはじめ様々な方々の協力により、ほぼ完全に近い状態にまで進みました。慰霊之碑には、高橋はるみ北海道知事から献花が手向けられ、改めて被害者に哀悼の意が表せられました。

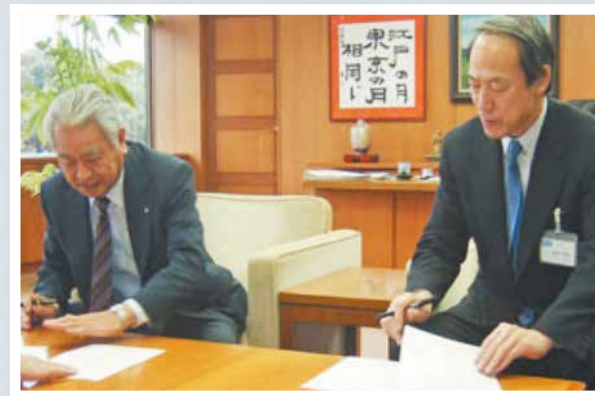
任期満了に伴う佐呂間町長選挙が行われ、川根章夫町長が初当選。合併新法への対応、基幹産業の活性化対策、少子高齢化社会に対応する福祉政策の充実など「次世代に引き継ぐものは何か」を念頭においたまちづくりがスタートとなった年でもありました。

また、東京都港区の三田商店街振興組合との交流の基本協定を結んだりと、姉妹都市であるアラスカ州パーマ市と姉妹都市交流委員会が設立されるなど、世界に向けて交流の輪を広げていく機運も高まりました。

未来に向け相互連携

三田商店街振興組合と交流

町と町商工会は東京都港区と三田商店街振興組合と「商店街友好都市との交流に関する基本協定」を締結。物産・観光振興の交流に加え、子どもたちの交流や災害時の相互支援にまで発展させました。



旭日単光章
故 石村 善治 氏

故 石村善治氏が1月9日付で受章されました。佐呂間町議会議員として6期24年の永きにわたり在職し、議会の円滑な運営に尽力され、地方自治の育成発展に貢献されたことが認められたものです。



旭日単光章
故 千葉 四郎 氏

佐呂間町議会議員として通算16年余り在職し、議会の円滑な運営に尽力され、永年にわたり地方自治の育成発展に貢献されたことが認められたものです。



瑞宝単光章
故 宝里 重明 氏

50年の長きにわたり、国勢調査をはじめ合計59回に及ぶ各種統計調査に従事され、地域統計に尽力した功績が認められたものです。



特旨叙位・旭日双光章
故 佐藤 良一 氏

佐呂間町議会議員として通算32年余り在職し、議会の円滑な運営に尽力され、永年にわたり地方自治の育成発展に貢献されたことが認められたものです。

新しい時代を受信

地上デジタル
テレビ放送
開始

テレビ中継局のデジタル改修が実施されました。2月には佐呂間中継局、知来中継局を開設。3月からは地上デジタルテレビ放送の本放送を実施しました。さらに11月からは若佐中継局から本放送が始まりました。



学校全体に「ゆとり」をもたらす

小中学校で二学期制スタート



2009年4月から二学期制が導入されました。前期・後期の2つの学期で構成し、前期と後期の間に「秋休み」を設置。学校内にゆとりが生まれ、先生と子どもたちが向き合う時間が生まれました。

まちにかける想いをひとつに

商工会青年部
記念式典

佐呂間町商工会青年部の創立40周年を祝う記念式典が、佐呂間コミュニティセンターで行われました。式典では、商工業振興からまちづくりに向け一層の結束を図るという想いが共有されました。



きれいな花でまちに輝きを

商店街美化事業

商工会の商店街美化事業として、道道留辺蘗浜佐呂間線沿いの花壇の花植えを実施。サルビア、マリーゴールド1万550本を、商店街、自治会の皆さんが植え、きれいな花で彩りました。

広がる交通手段の選択肢

イーグルライナー
若佐停留所開設

10月1日、札幌知床線高速バス「イーグルライナー」の停留所が若佐に開設されました。若佐から所要4時間15分で札幌に行ける直行便の誕生によって交通手段の選択肢が広がることとなりました。



第2期

2009

[平成 21 年]

「新佐呂間トンネル」の開通により
運輸・観光でのさらなる活性化へ

2009年は、網走開発建設部が、4年間にわたり工事を進めてきた国道333号「新佐呂間トンネル」が開通した記念すべき年でした。この「新佐呂間トンネル」の開通により、ルクシ峠の回避で走行の快適性、安全性が向上し、広域周遊観光が活性化されるとともに、災害時の避難経路の確保にも貢献しました。

また、ふれあいバス運行開始運行室設置、札幌・知床間運行の「イーグルライナー」の若佐停留所が開設されるなど、多面的に交通の利便性の向上が図られました。さらに、教育の分野でも改革が進められました。本年4月からすべての学校に「二学期制」が導入され、ゆとりある教育への取り組みが始まりました。川根町政の基本にある「これからもずっと住み続けたいと思う町」を目指し、町政の舵取りが進められました。



未来につながるトンネル

新佐呂間トンネル
が開通

オホーツク圏で最長、道内で2番目となる延長4110m（2009年3月末現在）を誇る国道333号「新佐呂間トンネル」が完成。3月14日に記念式典が若佐コミュニティセンターで開かれました。若佐地区を襲った竜巻により9名の工事関係者が犠牲となりましたが、工事関係者のご努力、地域住民の皆さんのご協力により、この度の開通を迎えたことを出席者全員で祝いました。



旭日双光章

故 爲廣 紀義 氏

元佐呂間町議会議員 爲廣紀義氏が旭日双光章を受章されました。佐呂間町議会議員として7期の永きにわたり在職し、地方自治育成発展に貢献されたことが認められたものです。

第2期

2010

[平成22年]



住民のニーズに応えながら
「ずっと住み続けたいと思うまち」を目指す

バンクーバーオリンピックでの多くの感動や、北海道大学名誉教授の鈴木章氏が北海道出身者としてノーベル化学賞を受賞するなど、明るいニュースがあった2010年。一方で地球温暖化が原因と思われる異常気象による災害が多発し、国内政治の先行きも混沌としていた年でした。

佐呂間町での話題を振り返ると、春先の天候不順や夏場の異常高温による影響で畑作の収穫量が減少し、畜産の粗飼料確保が厳しい状況となりました。また、北見バス、網走バス路線が廃止され、「ふれあいバス」の運行がスタート。住民の暮らしを支える新たな交通体系として順調な滑り出しとなりました。

取り巻く環境は決して楽ではない中でも、「これからもずっと住み続けたいと思うまちづくり」へ向けて、住民の理解と協力を得ながら歩んでいることが伺えます。

住民の足として暮らしを支える

ふれあいバス 運行開始

北見バス・湧網線
代替バス路線廃止

永年にわたり地域の発展に大きな役割を果たしてきた北見バスの「遠佐線」「佐呂間線」網走バスの「湧網線」が9月30日で廃止され、10月1日から町単独のバス路線として「ふれあいバス」の運行が開始されました。通学や通院など住民の足を確保し、生活を支えます。



節目を祝う記念式典を開催

パーマ市との 姉妹都市提携30周年

昭和55年より続いているアメリカのパーマ市との国際交流を記念し、7月15日に町民センターにおいて記念式典が行われました。式典にはパーマ市長をはじめ総勢24名が出席し、町内外からも多くの人が駆けつけ節目を祝いました。



3名の高校球児が夢の舞台へ

佐呂間町出身者が初の甲子園出場

第92回全国高校野球選手権大会に旭川実業が出場を決めたことで、佐呂間町初の甲子園出場選手が誕生しました。63名いる部員の中から18名のメンバーに選ばれ、佐呂間町出身者として甲子園の切符を掴んだのは玉井・室井・渡部選手の3名。佐呂間の野球少年たちに夢を与えてくれました。



完全デジタル化への動き

若佐中継局（民放） 地デジ放送開始

11月20日より、若佐中継局（民放）の地上デジタルテレビ放送の本放送がスタートしました。アナログテレビ放送が終了する2011年7月まではどちらも視聴可能ですが、本格的な地上デジタル放送への移行が始まりました。



瑞宝双光章
故 小田 稔 氏

昭和42年、佐呂間町に医師として赴任後、45年にわたり町の医療に従事し、地域医療および町民の保健福祉の増進に寄与。地域の救急医療体制整備に大きく貢献されました。



旭日小綬章
堀 次郎 氏

昭和63年から佐呂間町長として連続5期20年の長きにわたり在職。基幹産業の振興、福祉の向上、教育など住民の生活安定と地方自治の伸展に貢献したことが認められました。



旭日単光章
故 長屋 和敏 氏

平成5年から連続5期17年にわたり佐呂間町議会議員として在職。議会の円滑な運営に尽力し、地方自治の育成発展に貢献されたことが認められました。



特旨叙位（従六位）
故 片平 俊男 氏

昭和40年から連続6期24年にわたり佐呂間町議会議員として在職。議会の円滑な運営に尽力し、地方自治の育成発展に貢献されたことが認められました。



第2期

2011

[平成 23 年]



栃木地区集団移住から

節目の100年

明治44年4月足尾銅山鉍毒罹災者が栃木地区に移住し、この年100年の節目を迎えました。足尾銅山の鉍毒被害から生まれ育った故郷を後に酷寒、未開の地に66戸240名余りの移民団が移住し厳しい環境下、懸命に開拓に勤しみ今日の栃木地区の礎を築きました。

また、東日本大震災以降、防災への関心が高まる中、地域防災計画を改訂し防災の取り組みや災害時における対応がより詳しくなりました。さらにこの年、政府がT P P（環太平洋経済連携協定）への参加協議を表明。農業・漁業が基幹産業の本町において大きな影響が懸念される事態となるなど、大きな節目の年となりました。

スポーツでは、町技でもあるソフトボールで佐呂間中学校女子ソフトボール部が少ない部員の中、初めて全国大会への出場を決め、町は大いに盛り上がりました。

笑顔を力に、初出場の快挙

佐呂間中学校女子ソフトボール部が全国大会初出場

佐呂間中学校ソフトボール部が、町技としては佐呂間町初の全国大会出場を果たしました。残念ながら初戦敗退したものの、苦しい場面でも笑顔で、最後まで諦めずにプレーをする選手たちの姿は、町民に大きな感動を与えてくれました。



変わる地域医療のあり方

佐呂間厚生病院が無床クリニックに運営縮小

3月31日付の人事より、佐呂間厚生病院は常勤医師の後任が確保できなくなるため、無床の診療所に転換されることになりました。今後は医師1名で通院患者だけを診察する診療所として、地域医療を支えていきます。



先人の偉業を讀えて

栃木地区開基 100 周年

4月21日、開基100年を迎えた栃木地区で記念碑の除幕式が行われました。栃木地区はかつて、足尾銅山鉍毒事件の被害者である栃木県下都賀郡民を中心とする約240名が移住。酷寒やあらゆる苦難に堪え開拓を進めた先人のこれまでの偉業を讀え、除幕式では黙祷が捧げられました。



安定した給水を

浜佐呂間簡易水道通水式

施設の老朽化と水源地の流域環境の変化から、取水量や水質基準などの強化が望まれていた浜佐呂間・幌岩地区の簡易水道施設が完成し、3月11日に通水式が行われました。テープカット後、多くの関係者に見守られ通水が開始されました。



頻発する自然災害に備えて

佐呂間町地域防災計画を改訂

佐呂間町は、多発する大規模災害状況に基づく新たな防災対策整備のため、別に定める水防計画と合わせ地域防災計画を改訂しました。町の地域性を踏まえた防災の基本指針となるもので、町民の生命、身体および財産を自然災害などから保護するために必要な事項を定めています。



瑞宝単光章

故 室井 勝三 氏

昭和21年に佐呂間村警防団に入団し、昭和58年に退団されるまで、37年にわたり分団長を務めるなど消防団活動に尽力。この功績により受章となりました。



瑞宝単光章

故 太田 米藏 氏

昭和30年から国勢調査の調査員はじめ、農(林)業センサス調査員、北海道農業基本調査など、各種統計調査に長きにわたり尽力され、その功績により受章となりました。



町の基幹産業への影響を議論

TPP を考える佐呂間町集会を開催

2月20日、「TPPを考える佐呂間町集会」が、多くの事業所協賛のもと開催されました。当日は、第一次産業だけでなく商業や建築業などの方たちも集まり、講師に日本農業新聞の一杉氏を迎え、TPPがもたらす佐呂間町への影響について理解を深めました。



瑞宝単光章

故 河村 登 氏

昭和30年の国勢調査から平成17年まで調査員として従事したほか、農林業センサス調査員、北海道農業基本調査員としても長年尽力された功績により受章となりました。



旭日単光章

故 定久 保男 氏

昭和52年から6期24年にわたり、町議会議員として活躍。平成5年からの4年間は町議会副議長として佐呂間町の振興に大きく貢献されたほか、農業の振興にも尽力されました。



瑞宝双光章

岸本 勲 氏

昭和16年から昭和63年の退職まで佐呂間町行政、地方自治の振興に貢献。退職後は社会福祉協議会会長、サロマ福祉会理事長などとしても活躍しました。



地産地消の給食へ

初のサロマ牛を使った献立

12月15日の学校給食に、初めてサロマ牛を使ったハンバーグが提供されました。今回のハンバーグは地元の特産を食べてもらいたいと提供されたもので、サロマ牛100%。子どもたちも大喜びで食べていました。



適切な災害対策のために

緊急速報「エリアメール」導入

佐呂間町では、4月24日からNTTドコモが提供する緊急速報「エリアメール」を導入しました。気象庁が提供する緊急地震速報や佐呂間町が配信する災害・避難情報を、ドコモの携帯所持者(住民)に配信するサービスです。



0歳から中学生まで医療費無料

さろま子育て応援医療費助成事業がスタート

4月1日から、子育て世帯の経済負担を軽減し、安全・安心な住みやすいまちづくりを進めるため、今までの乳幼児等医療費助成を大きく拡大して、0歳から中学生までの子どもを対象に医療費の無料化を開始しました。



モモちゃんデザインに

住民票と印鑑証明書がリニューアル

4月1日から佐呂間町の住民票、印鑑証明書が一新。不正防止の特殊な用紙が使用され、町のイメージキャラクターであるモモちゃんがデザインされたものになりました。イメージキャラクターを使用した住民票や印鑑証明は当時としては珍しく、話題を集めました。



第2期

2012

[平成 24 年]

揺れる社会情勢と進む地方分権 町独自の取り組みを積極的に推進

東日本大震災の翌年、国内は被災地復興に向けての歩みや福島原発事故の対応などが引き続き世間の関心を集めた一方で、選挙で再び自民党政権が確立されるなど政治面でも大きな動きがありました。

明るいニュースとしては、サッカーのなでしこジャパンが世界選手権で優勝したほか、北海道日本ハムファイターズが3年ぶりにパ・リーグ優勝を飾り、道内は盛り上がりを見せました。

佐呂間町では大きな自然災害の影響を受けることなく農業・漁業は平穏に推移しましたが、地方分権時代への流れが急速に進みつつある中で、町としてさらなる産業の活性化や少子高齢化対策などが求められるようになっていきました。

住民票・印鑑証明書のリニューアルやさろま子育て応援医療費助成事業などの町独自の取り組みが増えていったのもこの時期です。

町を挙げての大イベント

佐呂間の花嫁 お見合い大作戦

6月29日～7月1日、テレビ番組の企画「佐呂間の花嫁お見合い大作戦」(7月24日放送)の収録が町内各所で行われました。100年広場では、参加する女性陣の歓迎イベントが開催。佐呂間中学校吹奏楽部による演奏をはじめ、カルガモダンサーズのパフォーマンス、佐呂間獅子保存会の獅子舞など、さまざまな催しで歓迎。会場に集まった約1,500人の町民の協力で、収録は盛り上がり、大成功となりました。



町の安全のために

新たに消防団協力事業所 2カ所が認定

遠軽地区広域組合消防本部が消防団に積極的に協力している事業所として認定する、消防団協力事業所に(株)トップファーム、(株)サロマ農機車輛センターの2事業所が新たに認定されました。表示証は、遠軽地区広域組合本部消防長から両事業所に交付されました。





佐呂間町で新エネルギー生産を メガソーラー 建設要望書提出

旧若佐小学校跡地に大規模太陽光発電所（メガソーラー）が建設されることになりました。約43,000㎡の敷地に最大出力1,250kW、推定年間発電電力量25万kWhの太陽光発電所を予定しており、この太陽光発電で一般家庭300戸ほどの電力をまかなうことができます。

法務局が表彰

人権啓発に取り組む学校に感謝状

2月27日、人権擁護教室の開催など人権啓発を積極的に行っている佐呂間小学校、浜佐呂間小学校に法務局から感謝状が贈られました。佐呂間小学校では10年前から、浜佐呂間小学校では開校以来7年間、毎年人権教室を行っています。



浜佐呂間で避難所開設

道東地方の暴風雪9名死亡

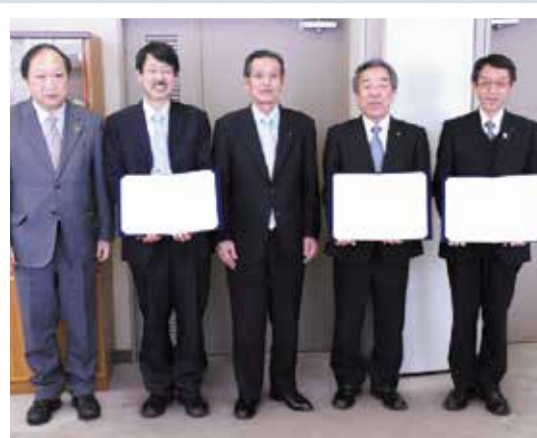
3月2日、北海道を発達した低気圧が通過。積雪を巻き上げる地吹雪も発生し、特にオホーツク海側の地域での影響は大きく、道内では合わせて9名の方が亡くなるという大惨事となりました。浜佐呂間でも避難所を開設するなど対応に追われました。



大学と地域相互の発展を目指す

酪農学園大学と 「地域総合交流に関する 協定」締結

3月18日、酪農学園大学（江別市）と佐呂間町の「地域総合交流に関する協定」の調印式が行われました。この協定はオホーツク共済組合の協力を得て大学が行う、生産動物医療に係る参加型臨床実習の実習生の受け入れを町で行うものです。



第2期

2013

〔平成25年〕

安心・安全・快適な暮らしのため 創意工夫を重ね未来へと進む

2013年、佐呂間町では3月の暴風雪により大規模な道路交通障害が発生。さらに8月の局地的な大雨と強風により米・若佐地区の一部で床下浸水などがありました。大規模な被害にまで及ぶことはありませんでした。

町の話題としては、町有遊休地を民間事業者に貸し付け、再生可能エネルギーの普及を図る太陽光発電所が旧若佐小学校跡地に完成し、稼働を開始。次世代エネルギーへの取り組みに期待が高まりました。

また、戸籍事務の電子化や消防本部の「高機能消防指令システム」導入など、住民の安心・安全・快適な暮らしを守る取り組みが数多く実現した年でもあります。

T P P問題や地域医療のあり方など、地方自治体として楽観視できない状況が続く一方で、佐呂間町は創意工夫を重ね、魅力あるまちづくりを進める姿勢を貫きました。

暮らしと安全を守る

「高機能消防指令システム」を導入

遠軽地区広域組合消防本部では、4月1日から「高機能消防指令システム」を導入し、新たに消防指令センターを開設しました。通報者の発信位置を表示し、消防隊または救急隊への出動指令を自動で行うことができ、災害情報の問い合わせも対応可能なシステムとなっています。



より便利に、より快適に

戸籍事務の 電算化がスタート

これまで謄抄本は手書きやタイプライターで記載し、複写して作成していたため、出生や婚姻などの届出から証明書発行までの時間がかかっていました。3月11日から電算化し、戸籍の作成や証明書発行までの時間を短縮したほか、証明書も見やすく改良されました。



瑞宝単光章

嶋田 博 氏

永きにわたり消防団員（35年間）とし、分団長等の要職を歴任され、団員の指導育成や火災予防思想の普及にご尽力され、地域住民の安全と福祉の向上に努められました。

地域の現状を把握

高橋知事が佐呂間町を訪問

6月27日、地域の現状を把握するため、高橋はるみ北海道知事が佐呂間町の視察に訪れました。知事は最初に若佐の竜巻慰霊碑を訪れ手を合わせた後、(株)トップファームを視察。本町を例に、地域の第一次産業について、井上社長、川根町長らと意見を交わされました。



少子化による教育環境の変化

平成27年度より佐呂間高校が地域キャンパス校に決定

2015年より、佐呂間高校が「地域キャンパス校」となりました。地域キャンパス校とは、北海道独自の制度(当時)であり、他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い第1学年1学級の高校を地域キャンパス校として、同一通学区域内のセンター校からの出張授業や連携した教育活動等により、教育環境の維持充実を図るものです。



北富地区 82 戸に安定給水を

簡水北富給水区完成式

3月13日、佐呂間簡易水道北富給水区の完成式が行われました。2009年から5カ年計画で進められ、新たに完成したこの施設は、日の最大給水量720m³。北富地区82戸に安定した給水ができるようになりました。



町の事業へのさらなる参加を奨励

ゲンキマイレージに「道の駅サロマ湖・物産館みのり賞」が誕生

町で行う子育て事業や健康推進事業に参加してもらえるゲンキマイレージは、貯めると「みのり」で景品と交換ができます。平成25年度に最もマイレージを貯めた上位3名の方に、マイレージ交換とは別に「みのり賞」として特別な景品が贈られました。この賞は、みのりからの提案で行われ宮崎店長から手渡されました。



高温のため完走率 60% 下回る

サロマ湖100km
ウルトラマラソン開催

毎年恒例のサロマ湖100kmウルトラマラソンが6月29日に行われました。今年のエントリー総数は4158名。佐呂間町からは27名がエントリーし、10名が完走しました。この年の6月は真夏並みの暑さに見舞われ、高温のため完走率は56.5%と60%を下回る結果となりました。



第3期

2014

[平成26年]

消費税率が8%に引き上げられた2014年、長引くデフレからの脱却を図るため安倍政権による「アベノミクス」が継続され、大企業や株式市場は改善傾向が見られました。しかし、地方への波及効果は実感できるものではなく、地方自治体が抱える課題は深刻化の一途を辿っています。

また、この年は冬季ソチオリンピック・パラリンピックが開催され、多数の選手を送り出している北海道民に感動と希望を与えてくれました。

佐呂間町としては、開基120年を迎えた区切りの年です。幸いにも大きな災害などはなく、基幹産業は計画通りに推移しました。

大きな話題では、町立診療所「クリニックさろま」の開設がありました。また、地域の医療の充実を図ることで、「ずっと住み続けたいまち」の実現へと歩みを進めています。

開基120年を迎え安定した一年
豊かなまちづくりの施策も次々と実現



親しまれ、利用しやすい診療所を目指して

小田医院の病床を
クリニックさろまが引継ぐ

4月1日、佐呂間町立診療所「クリニックさろま」開設式が行われ、4月2日から診療がスタートしました。町内唯一となる町立診療所は、「町民に親しまれ、利用しやすい診療所」を目指して運営されます。小田医院の入院病床を受継ぎ、入院も可能となります。

佐呂間町で唯一の個人病院

「小田医院」閉院

3月31日をもって、小田医院が閉院しました。小田医院は院長の小田稔氏が昭和53年10月、病床数19床で開院。以来、平成26年3月までの約36年間、診療を行い町民に寄り添ってきました。



旭日単光章

故 堀米 克雄 氏

佐呂間町議会議員として連続4期16年にわたり在職され、議会副議長、産業建設常任委員会委員長などを歴任。地方自治の振興発展に多大な功績を残されたことにより受章となりました。



瑞宝双光章

宇佐美 不二夫 氏

昭和28年から平成12年まで、佐呂間町職員として民生課長・総務課長・助役など要職を歴任。地方自治の振興発展に多大な功績を残されたことにより受章となりました。

市町村ドラフトに当選

2名の選手が 2015年佐呂間町応援大使に

北海道日本ハムファイターズの選手が全道の市町村を応援する「北海道179市町村応援大使」の市町村ドラフトで、佐呂間町が当選。応援大使として任命されたのは、増井浩俊投手・石井裕也投手で、1年間、佐呂間町のPRや町民との交流などを行います。



2日間の降水量 187mmを記録

台風23号大雨災害で 町内に大きな被害

10月8日から9日までの台風23号による大雨により、町内に甚大な被害をもたらしました。町では「平成27年台風23号災害対策本部」を設置し対応に当たりましたが、床上浸水や河川・道路・橋梁等の被害があったほか、佐呂間下地区を中心に農地が冠水し、漁業では鮭の定置網が流されるなど、大きな傷跡を残しました。



永久の友好親善を誓う

パーマ市との姉妹都市 提携35周年記念式典へ

佐呂間町とパーマ市との姉妹都市締結35周年を祝う記念式典がパーマ市で開催され、記念式典には佐呂間町からの訪問団19名に、姉妹都市締結の立役者となった元佐呂間高校教諭の石黒睦弘さんを加えた20名が参加しました。



人の絆でサロマを元気に

サポーターズ倶楽部 事業がスタート

佐呂間町出身者に限らず、佐呂間町に興味を持っていただける町外の方に佐呂間町を応援してもらう「佐呂間町サポーターズ倶楽部」が5月からスタートしました。



第3期

2015

〔平成27年〕

台風の被害に悩まされながらも 町としての取り組みは着実に

佐呂間町は春先から安定した天候に恵まれ、農業や水産業は堅調に推移しました。しかし10月に台風23号が発生。大雨に伴い、町道の損壊や小河川の氾濫、床上浸水、農作物の冠水などの被害がもたらされました。

また、昨年診療を開始した「クリニックさろま」の新施設が完成したことも町民の関心を集めました。

さらに、パーマ市との姉妹都市締結35周年記念を迎え、訪問団がパーマ市を訪問。引き続きの友好と親善を深めたほか、「佐呂間町サポーターズ倶楽部」(会員500名超え、北海道日本ハムファイターズの選手が応援大使に就任するといった明るい話題が満載の2015年となりました。

住民ニーズの多様化・複雑化により地方の行政運営が難しくなる中でも、佐呂間町は一人ひとりの生活を守るべく取り組んでいることが分かります。



安心して暮らせる地域医療のために

「クリニックさろま」 新施設が完成

10月30日に新しい「クリニックさろま」が完成し、施設の落成式と内覧会が11月19日に多くの関係者の参加のもと挙行されました。「クリニックさろま」は昨年開設しましたが、老朽化が著しい建物の新築事業を計画し、開設から約1年半かけて新しい施設が完成しました。



特旨叙位 (正六位)

故 爲廣 紀義 氏

永きにわたり町議会議員(28年間)として町議会の円滑な運営にご尽力され、地方自治の育成発展に努められました。



瑞宝単光章

梶 邦義 氏

昭和40年から平成22年までの51年の長きにわたり、国勢調査をはじめ各種統計調査に従事。その功績により受章となりました。



「元気で活力のある佐呂間」へ 佐呂間町長選挙で 現職の川根氏が 3期目当選

この年の8月、佐呂間町長選挙が行われ、現職の川根章夫氏が無投票3期目に当選しました。1期目、2期目の経験を活かし、新たな4年間は「元気で活力ある佐呂間」の実現をスローガンに掲げました。



町民の健康増進のため

町の公共施設が 全面禁煙に



佐呂間町は4月1日より、「健康増進法」に基づき、町民の健康増進を図る観点から受動喫煙を防止し、快適に公共施設を利用していただくため、役場庁舎内をはじめ町内すべての公共施設内を全面禁煙としました。

災害発生から10年

佐呂間竜巻災害慰霊祭を実施



11月7日、若佐自治会による慰霊祭が被災現場の慰霊碑前で行われ、遺族や住民の方々約20名が献花し、犠牲者の方々の冥福を祈りました。竜巻災害発生から10年となる今年、被災者でもある佐々木孝三郎若佐自治会長は、「災害は決して忘れてはいけない。今後も慰霊祭を続けていきたい」と話されていました。



第3期

2016

[平成 28 年]

川根章夫町長が3期目へ 誓い新たに活力ある町を目指す

北海道新幹線の開業、そして北海道日本ハムファイターズのリーグ優勝と10年ぶり3度目の日本シリーズ制覇など、道内が活気にあふれる話題が多かった2016年。

佐呂間町では現職の川根町長が無投票で当選し、3期目の町政に突入。「元気で活力のある佐呂間」を掲げ、さらなる佐呂間の発展を目指す第一歩の年となりました。

観測史上最大となる瞬間風速を記録した3月の暴風雪や、8月に4つの台風上陸・接近など災害への警戒が強まりましたが、いずれも大規模な災害とはならず、被害は最小限に留まりました。

前年に新築完成した「クリニックさるま」は秋から医師2名体制での診療となり、安定した運営へと移行しています。

また、佐呂間町出身としては初のプロ野球選手誕生という喜ばしいニュースもあり、町民の関心を集めました。

佐呂間町初のプロ野球選手

玉井大翔選手が 日ハムから ドラフト指名

10月20日、玉井大翔投手が、ドラフト会議で北海道日本ハムファイターズから8位指名を受け、プロの世界へのスタートラインに立ちました。初のプロ野球選手の誕生という嬉しい話題に佐呂間町は、大きな喜びに包まれました。



藍綬褒章

柏尾 正博 氏

昭和40年から平成27年まで51年間の長きにわたり、延べ47回に及び各種統計調査に従事。特に国勢調査員としては10回にも及び尽力され、その功績が称えられました。



特旨叙位 (従六位)

故 小田 稔 氏

昭和42年に佐呂間町に医師として赴任後、約50年の長きにわたり町内の医療に従事。地域医療および町民の健康福祉の増進に貢献されたことが認められました。



瑞宝双光章

五十嵐 正一 氏

平成18年に若佐地区で発生した竜巻災害では、佐呂間消防団長として陣頭指揮をとるなど、44年にわたり消防業務に貢献。永年の功績が称えられての受章となりました。



旭日単光章

故 川又 利夫 氏

永きにわたり町議会議員(24年間)として町議会の円滑な運営にご尽力され、また農業委員としてご活躍され地方行政、農業の振興に努められました。

第3期

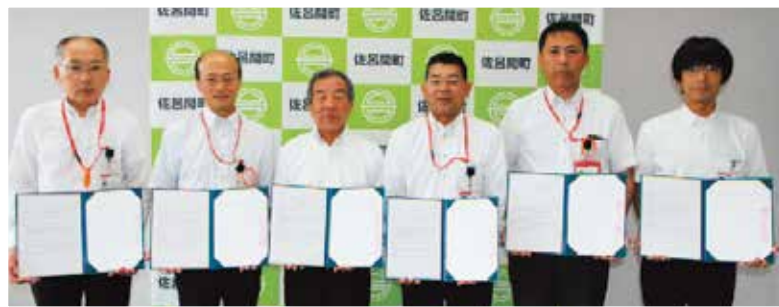
2017

[平成29年]

地域の見守り活動への取り組み

様々な企業との
地域協力協定を締結

佐呂間町は、町民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、各企業と「地域における協力に関する協定」または「高齢者等の地域見守り活動に関する協定」を締結しました。1月13日に北海道新聞紋別地区会および町内の北海道新聞販売店、7月12日に北見郵便局、佐呂間郵便局、若佐郵便局、北見栄郵便局、浜佐呂間郵便局、8月28日に第一生命保険株式会社帯広支社と締結。地域の見守り体制を強化しました。

酪農・畜産の分野で新施設・設備に期待
少子高齢化対策への取り組みも

国際的にはアメリカ大統領にトランプ氏が就任、国内においては安倍政権が掲げるアベノミクスによって穏やかな回復基調が続いている中、前年から「元気で活力のある佐呂間」をスローガンに取り組みを進める佐呂間町は、少子高齢化や核家族化への医療福祉の対策として様々な施策を打ち出しました。

数年前から推進している地域医療の要「クリニックさろま」の整備や高齢者福祉住宅の建設のほか、2017年は新聞販売店や郵便局、生命保険会社といった様々な民間企業と地域協力協定を締結し、地域における住民への見守り体制を強化しました。

また、産業の進展では酪農・畜産の分野で(株)オックス・(株)穴戸牧場による新牛舎の完成、ホクレンの家畜市場の増改築が完了するなど、新しい施設・設備が続々と整い、大きな期待が集まりました。

ひとり暮らしでも「安心して生活できる」集合住宅

佐呂間町高齢者福祉住宅
安心ハウス完成

郊外の農漁村地域で生活するひとり暮らしの高齢者の方が、買い物や通院、冬期間の除雪など生活の不安を解消するため、佐呂間町では低所得の方でも安心して入居できる平屋建ての高齢者集合住宅「安心ハウス」を建設しました。暖房設備は全館循環式の温水ボイラーによる暖房パネルを装備し、居室の調理器にはIHクッキングヒーターを備え付け、火を使わない安全対策を施しました。また、夏季の高温による熱中症対策として居室にエアコンも完備しています。お店やクリニックさろまに歩いて通える市街地の中にあり、生活や通院に便利で安心できる快適な環境です。



パーマ市との絆を深める

佐呂間小5年生が
授業で姉妹都市交流

12月21日に佐呂間小学校の5年生が、授業で「skype（スカイプ）」を利用して、姉妹都市であるパーマ市の小学生とテレビ電話で交流しました。児童たちは英語で自己紹介をしたり、佐呂間町を紹介したりするなど交流を深めました。



(株)オックス・(株)穴戸牧場

新牛舎完成で
竣工式を実施

3月25日にトップファームグループ(株)オックス、3月31日に(株)穴戸牧場でそれぞれ新牛舎完成に伴う竣工式が執り行われました。オックスでは佐呂間町初の500頭規模の搾乳を行い、穴戸牧場では佐呂間町初の搾乳ロボットを導入。事業を本格稼働させ、生産性の向上を目指します。



管内家畜生体の発展と安定販売のため

ホクレン北見地区
総合家畜市場の
増改築が完了

3月16日、ホクレン北見地区総合家畜市場の増改築工事が完了し、修祓式が行われました。今回の増改築工事は、市場取り扱い頭数の増加に伴い、管内家畜生体の発展・安定販売のために実施されました。



旭日 単光章

故 千葉 清美 氏

昭和48年から佐呂間町議会議員として、6期24年にわたり在職し、この間、社会文教常任委員会委員長などを歴任。議会の円滑な運営、地方自治の育成発展に貢献されました。



旭日 双光章

福田 幸輝 氏

昭和59年から平成17年まで佐呂間町議会議員として連続6期21年にわたり在職。この間、議会議長としても本町および地方自治の振興発展に多大な功績を残されました。



瑞宝 双光章

北村 舜襄 氏

昭和57年より長年にわたり保護司として活動。平成27年からは遠軽地区保護司会会長および釧路保護司会連合会理事を務め、それら功績が称えられ受章となりました。



瑞宝 単光章

渡邊 凱爾 氏

39年の長きにわたり消防業務に貢献。平成6年に浜佐呂間市街地区で発生した火災の際は、陣頭指揮をとり延焼被害を最小限に食い止めるなどその手腕を発揮されました。



旭日 単光章

故 香川 茂 氏

昭和56年から連続4期16年にわたり佐呂間町議会議員として在職。産業建設常任委員会委員長などを歴任し、議会の円滑な運営に尽力され地方自治の育成発展に貢献されました。



旭日 単光章

故 田宮 定夫 氏

昭和48年から3期12年にわたり佐呂間町議会議員として在職。総務財政常任委員会副委員長などを歴任し、議会の円滑な運営に尽力され、地方自治の発展に貢献されました。

第3期

2018

〔平成30年〕

総合計画策定審議会がスタート

大規模な地震災害にも迅速に対応

2018年は、特色あるまちづくりを目指す第5期佐呂間町総合計画策定に向け、審議会を設置し、2年間にわたる審議を開始した年です。この審議会は町内の各団体から推薦された24名と応募で集まった一般町民4名の計28名で構成され、精力的な審議の様子が人々の町政への関心を高めました。

9月6日には、北海道胆振東部地震が発生。強震動により広い範囲で土砂崩れが起き、41名の方々が亡くなるなど甚大な被害をもたらしました。佐呂間町も災害復旧支援のため職員を被災地に派遣しています。

また、地震の影響によって道内全域が停電となる史上初のブラックアウトが起き、生活に大きな影響が出ました。このように前例のない自然災害が増え、先の見通しに不安が募る中、佐呂間町は適切な施策で住民の生活の安定に努めました。

第1回総合計画策定審議会を開催

第5期佐呂間町総合計画策定へ

第5期佐呂間町総合計画策定にあたり、10月16日に第1回目となる「第5期佐呂間町総合計画策定審議会」が開催され、町内の各団体からの推薦者24名と一般公募者4名の計28名の方々へ、町長から委嘱状が交付されました。

4項目を追加し新たに協定締結

郵便局とより包括的な連携体制を構築

5月2日に町と町内4郵便局および北見郵便局との間で「包括連携に関する協定」が締結されました。本協定は、昨年7月に締結した「地域における協力に関する協定」をさらに充実・拡充する形で4項目を追加し、新たに締結されたものです。従前の高齢者等の見守りに加え、未来を担う子どもの育成や地域活性化・住民サービスの向上などが盛り込まれています。

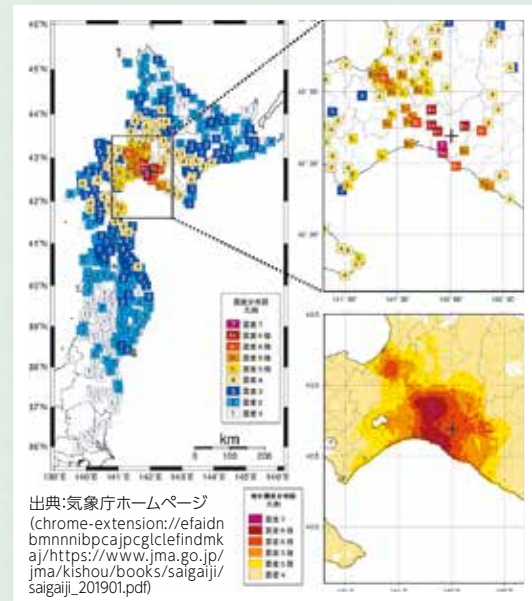


観測史上初の震度7を記録

北海道胆振東部地震発生



9月6日3時07分、北海道の胆振地方中東部を震源とする地震が発生しました。最大震度は厚真町の震度7で、北海道で観測史上初めて震度7を記録。これにより道内では死者41名および多数の住家損壊など大きな被害が生じました。また、道内全域で大規模停電が発生しました。



日頃の練習の成果を発揮

佐高吹奏楽局が
全国大会で最優秀賞

佐呂間高校吹奏楽局は、第24回日本管楽合奏コンテスト高等学校S部門において、CD録音による予備審査を突破し、11月18日に東京都で行われた全国大会に出場。見事、最優秀賞を受賞しました。



旭日半光章

故 上杉 勤 氏

昭和60年から5期20年にわたり、佐呂間町議会運営委員会委員長などを歴任。議会の円滑な運営に尽力され、地方自治の育成発展に大きく貢献されました。



瑞宝半光章

長岡 敏雄 氏

38年の長きにわたり、消防活動に貢献。豊富な知識と経験を生かし、消防組織の充実強化、指導育成に務めるとともに、多くの災害に対処しその手腕を発揮されました。

過去に例のない規模

道内の生乳が大量廃棄

北海道胆振東部地震による停電の影響で、道内の酪農家が大量の生乳を廃棄せざるを得ない状況に追い込まれました。佐呂間町も例外ではなく、冷却装置が使用できない上、乳業工場の大半が操業できず生乳の受け入れを見合わせたため、過去に例のない規模の大量廃棄となりました。



佐呂間の冬の味覚を満喫

牡蠣1トン食べ放題に大行列

11月18日に道の駅「サロマ湖」で佐呂間漁協による「牡蠣祭り」が開催されました。「1トンの牡蠣を食べつくせ!」と題して、蒸し牡蠣の食べ放題を500円で実施。先着200名ということもあり、当日は朝早くから長蛇の列ができていました。

第3期

2019

〔 令和元年 〕

新たな年号「令和」の幕開け 情勢の変化に対応し魅力あるまちへ

5月1日、第126代目となる新天皇陛下が即位され、「令和」へと改元が行われました。新たな時代への期待に満ちたムードが漂う中、国政では9月に第4次安倍内閣が発足、道政では北海道知事選挙が行われ、鈴木直道氏が当選しました。

また10月1日に消費税率が10%に引き上げられたものの、一部では軽減税率が適用され、混乱が生じる結果となりました。町内では、異例の猛暑に見舞われ、佐呂間町が5月に39.5度を記録。5月の全国の最高気温を更新しました。一方で12月には旭川・紋別自動車道が延伸し、遠軽瀬戸瀬～遠軽間が開通。約100kmの事業中区間が全通となり、より快適な車移動が可能になりました。

気候変動や国内経済など様々な情勢の変化に対応しながら、町民にとって魅力あるまちづくりの実現を目指しています。

39.5度を記録 5月の国内最高気温を更新

5月26日、佐呂間町では39.5度を記録し、5月の全国の最高気温を更新しました。全国で真夏日を記録しましたが、北海道ではこの日、朝から気温が上昇。道内で5月に35度を超えるのは観測史上初めてでした。



北海道新聞
2019年
5月27日掲載

未来のプロ野球選手を育成

日本ハム ファイターズによる 野球教室開催

6月9日、北海道日本ハムファイターズの元プロ野球選手による少年野球教室が総合グラウンドで開催され、野球少年団・佐中野球部の選手30名が参加しました。日本ハムファイターズサロマ後援会が主催し、市川卓さんと須永英輝さんが講師を務めました。



消費税率の変更により

下水道使用料が 値上がり

10月1日からの消費税率引き上げに伴い、水道料金・下水道使用料についても11月の請求分(10月使用分)から値上げが行われました。家計に直結する光熱費の値上げは、住民にとって大きな関心事でした。



地域に根ざし、さらなる発展を

テストコースの 新事務所を開所

12月9日、TOYO TIRES佐呂間タイヤテストコースの新事務所の開所式が行われました。新事務所は、森永乳業(株)が所有していたパークゴルフ場跡地(西富)に建設され、旧事務所の約3倍の規模となっており、テストに関わる作業効率が飛躍的に上昇しました。



2020 年春オープン予定

若里の廃校舎を加工場に改装

湧別町の(有)中谷牧場が、12月3日、春より稼働予定の旧若里小学校を改装した加工場でアイスクリームやヨーグルトの試食会を開催しました。加工場に併設されたカフェ「若里ジャージーミルク工房ARVO(アルボ)」を開放し、約400名もの来場者で賑わいました。

旭日単光章
故 鈴木 洋 氏

平成元年から5期20年にわたり、佐呂間町議会産業建設常任委員会委員長や同議会議長などを歴任。議会の円滑な運営に尽力され、地方自治の育成発展に大きく貢献されました。

2年間の審議を経て

第5期佐呂間町 総合計画策定審議会の 最終計画が承認

7月17日に第3回目となる「第5期佐呂間町総合計画策定審議会」が開催され、審議会委員で審議した内容を取りまとめた最終計画が承認されました。総合タイトルは、「自然の恵みに感謝し、人が人を支え、共に創(つく)る、生涯の郷(さと)、サロマ」。これは「町民が豊かな「湖と大地」の恵みに感謝し、人と人が支え、一生住み続けたいふるさとづくりをめざす」ことを意図して作られたものです。



第3期

2020

〔令和2年〕

コロナ禍で混迷を極める中 新町長就任で新たな一歩を

2020年は、中国武漢市で発生した新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界規模でのパンデミックが起こりました。

東京オリンピック・パラリンピックが延期され、4月には政府が初の緊急事態宣言を発令。インバウンドの減少や外出行動制限により国内経済も大きな打撃を受けたほか、学校の臨時休業など国民生活もかつてない影響を及ぼしました。

佐呂間町では、町税等の徴収猶予、プレミアム付商品券販売・飲食店等専用商品券無料配布、全町民へのマスク配布といった様々な施策が行われました。

また、9月に武田温友氏が新佐呂間町長に就任。「子どもたちには夢と希望を、働き盛り世代の方には佐呂間町で働く誇りを、高齢者の方にはいつまでも住み慣れた家で暮らせる安心を」の実現に向け、厳しい社会情勢の中で第一歩を踏み出しました。

新しい佐呂間町の創造へ

武田温友氏が新佐呂間町長に就任

任期満了による佐呂間町長選挙が8月30日に行われ、武田温友氏が当選。9月14日に多くの職員に拍手で迎えられ初登庁しました。世界が新型コロナウイルスによる混乱の渦にある中、武田新町長は町民の幸せと笑顔を増やしていくことを使命に、「新しい佐呂間町の創造」の念頭に掲げました。



20年間の功績を称えて

佐呂間漁業協同組合に 献血功労表彰

11月17日、佐呂間漁業協同組合に日本赤十字社より献血功労表彰銀色有功賞が贈られました。この賞は、20年間にわたり継続して献血運動へ協力した功績が認められた団体や人に贈られるものです。



若手職員が切磋琢磨

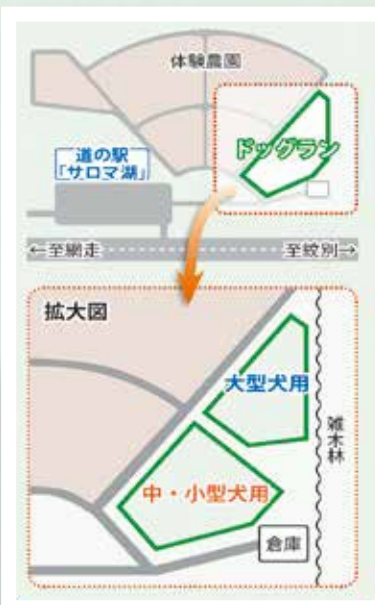
消防訓練競技会を開催

消防署佐呂間出張所で、若手職員による消防訓練競技会が開催されました。火災現場を想定し、防火衣等の着脱・ホースの延長・はしごの伸べ・消火に至るまでの安全・確実・迅速性を競うものです。互いに切磋琢磨することで、個々のスキルアップ、モチベーションの向上が図られました。

ペット連れに無料開放

道の駅「サロマ湖」に ドッグランを新設

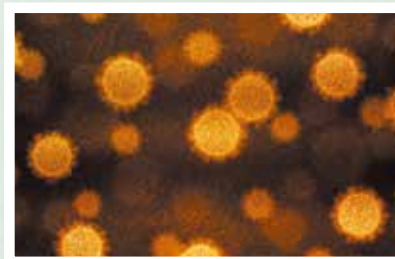
道の駅「サロマ湖」併設の体験農園にドッグランがオープン。施設は無料開放しており、大型犬用と中・小型犬用に区画分けされているのでなたでも安心して利用できます。畜犬登録と狂犬病予防接種が利用条件となります。



小中学校が一斉休校

新型コロナウイルス感染拡大

新型コロナウイルス感染症の拡大により、政府は3月2日から全国の小中学校と高校、特別支援学校に臨時休校を要請。子育て世代の保護者にも働き方の見直しなど様々な影響が出ました。また、これにより消費が落ち込んだ乳製品の消費回復を促すため、株式会社三栄通商から佐呂間の子どもたちに牛乳券の配布や、佐呂間町農業協同組合から佐呂間町へ牛乳贈答券30万円分の寄贈が行われました。



感染拡大に伴う迅速な対応

新型コロナウイルス による影響への対策

佐呂間町では、新型コロナウイルス感染症の影響への対策として、町税等の徴収猶予、プレミアム付商品券販売・飲食店等専用商品券無料配布による経済対策、中学生以上の町民へのマスク配布を行いました。



瑞宝単光章

岡本 貢 氏

佐呂間町消防職員就任後、遠軽地区広域組合消防士長、同消防司令を歴任。39年間の在職期間中、数々の災害現場で陣頭指揮をとるほか、消防団員教育訓練等に尽力されました。



旭日双光章

中道 寛雄 氏

昭和59年から教育委員会委員、その後同委員長を務め、豊富な知識と経験のもと、学校再編など教育環境の充実、発展に尽力。旭日双光章「地方教育行政功労」を受章されました。



瑞宝単光章

橋本 英夫 氏

佐呂間町消防職員に就任後、遠軽地区広域組合消防士長や同消防司令を歴任。39年の在職期間中は、数々の災害現場で陣頭指揮をとるほか、消防団員教育訓練等に尽力されました。



第3期

2021

[令和3年]



**コロナウイルスの影響が続く中
町民の暮らしを守る施策を推進**

世界的な新型コロナウイルス感染拡大による混乱から1年が経過した2021年。先進国を中心にワクチン接種が進み、延期されていた「2020東京オリンピック・パラリンピック」が開催されるなど、世の中は少しずつ「コロナショック」からの回復傾向が見られます。

しかし、生産・消費活動においては依然として低迷が続いており、佐呂間町でも酪農畜産の分野などに影響が出ています。そんな中、災害発生時に町民の命を守る緊急の伝達手段として「防災行政無線」を整備、4月から運用がスタートしました。

さらに子育て支援対策の一環として「学校給食費無償化」を実施し、保護者の負担軽減を図るなど、教育環境の充実を推進しました。コロナ禍という時代の変革期を迎えていることを踏まえ、的確かつ適正な施策で町民の暮らしを守っています。

J-AREETと連携した新システム

佐呂間町防災行政無線放送スタート

4月1日に佐呂間町の防災行政無線放送が開始しました。これは、J-AREETとの連携により災害情報、防災情報、行政連絡、定時放送などの情報を住民の皆様へいち早くお知らせするシステムです。スマートフォンやSNSとも連携し様々な方法で情報を確認することができます。



武田町長がお祝い

伊藤ご夫妻ともに百歳超え

8月4日、特別養護老人ホーム「愛の園」に入居されている伊藤ナエさんが100歳の誕生日を迎えられました。この日は武田町長が、ナエさんと、夫で104歳の金雄さんが入居する「愛の園」を訪問し、誕生日をお祝いしました。



第32回全国そば優良生産表彰事業

「株式会社はまほろ」が農林水産大臣賞受賞

「株式会社はまほろ」が(一社)日本蕎麦協会主催の、令和2年度第32回全国そば優良生産表彰事業において、オホーツク管内からは初の、最高位となる農林水産大臣賞を受賞し、3月26日に日本蕎麦協会の事務局長から表彰状が授与されました。



佐呂間高校の卒業生支援

「卒業生修学応援補助金」と「卒業生就職等応援給付金」

令和3年度より、新たな佐呂間高等学校の存続対策事業として、卒業生に対して経費の一部助成を行いました。支援の一つは「卒業生修学応援補助金」。大学や短大、専門学校に進学する場合に修学に関する資金を助成。もう一つは「卒業生就職等応援給付金」。就職や就職のための学校へ進学する場合の準備資金を支給しました。



健やかな成長のために

小・中学校の給食費を無償に

特色ある地域教育を目指して、子どもたちの栄養・健康確保を図ることを目的に、4月より、町内の小・中学校に通学する児童・生徒を対象とした学校給食費が無償となりました。費用を佐呂間町が負担し、保護者負担の軽減を行います。



中学女子軟式野球交流大会

U-15 女子北海道選抜が優勝

石川舞倅さん(佐呂間中学校1年)が選出されたU-15女子北海道選抜が、11月27日～28日に高知県で開催された「ベストフレンドマッチ四国2021中学女子軟式野球交流大会」に出場し、見事優勝しました。



「観光物産プロデューサー」として

佐呂間町初の 地域おこし 協力隊



過疎化や高齢化が進む佐呂間町で、「外からの視点」を取り入れた「まちづくり」を行うため、2名の地域おこし協力隊を採用しました。町外者が感じる佐呂間町の魅力を新たな観光情報として発信します。

本人も来場し「滲み画」を指導

安保真「滲み画教室」 3年ぶりに開催

佐呂間町生まれの現代墨絵作家の安保真さんの作品展が、10月1日～23日に開催されました。滲み画と呼ばれる墨を滲ませて描く独自の技法で描かれ、国内外から高い評価を受けています。10月5日は本人が来場し「滲み画教室」も開かれました。

庁舎の建て替えに向けて

第1回新庁舎建設 検討審議会が開催

10月3日、老朽化した役場庁舎の建て替えを検討する1回目の新庁舎建設検討審議会が開催されました。審議会委員14名に武田町長から任命書が手渡され、審議会会長には森林組合志賀克浩専務理事、副会長には商工会井上泰一副会長が選任されました。



瑞宝双光章

須藤 久幸 氏

50年間の長きにわたり、国勢調査をはじめとする各種統計調査に尽力。合計35回に及び調査に尽力された功績が認められ受章となりました。



旭日双光章

川根 章夫 氏

平成20年から佐呂間町長として連続3期12年にわたり在職。本町基幹産業の振興、地域医療の確保、教育・福祉の向上に尽力され、地方自治の振興発展に多大な功績を残されました。



遠軽地区代表として

初の全国 消防救助技術大会出場

8月26日に東京都立川市で、全国各地から選抜された消防隊員が救助技術を競い合う「第50回全国消防救助技術大会」が開催され、遠軽地区広域組合から、佐呂間町出身で佐呂間出張所勤務の本田悠斗隊員と他2名の1チームが出場しました。



コロナ禍の苦境を乗り越え悲願

佐呂間町出身の 主将率いる チームが花園へ

佐呂間町出身の荒田悠佑主将が率いる北見北斗高校ラグビー部が、9月20日より旭川市で開催された「第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会北海道予選会北北海道大会」で13大会ぶり38回目の優勝を果たし、東大阪市花園ラグビー場で開催される全国大会に出場しました。



コロナ禍で3年ぶり実施

「BON・ぼん・盆踊り!!」開催

8月14日、役場駐車場でコロナ禍以降3年ぶりに「BON・ぼん・盆踊り!!」が開催されました。会場には大勢の人が集まり、出店には長蛇の列ができるほどの賑わいをみせ、3年ぶりの盆踊りを楽しみました。



第3期

2022

[令和4年]

新型コロナウイルス感染症のまん延から1年、「ウィズコロナ」の掛け声のもと、経済活動が正常化へと動く一方、2月24日にロシアによるウクライナ侵攻が勃発。これにより世界的に原油価格および物価高騰が続き、生産・消費活動に今なお大きな影響を及ぼしています。

この年の佐呂間町では、基幹産業の農業は、春先の天候不順はあったものの計画を上回り、漁業も佐呂間漁協総水揚げ額は前年対比41%増となりました。また、コロナ禍で自粛や中止せざるを得なかった盆踊りなどの町内イベントや、学生のスポーツ活動などが徐々に復活し、町民の暮らしにも少しずつコロナ前の雰囲気に戻りつつありました。

そんな中、佐呂間町としては初めて「地域おこし協力隊」を2名採用。町に新しい風を呼び込む取り組みを開始しました。

経済活動や町民の暮らしは 徐々に「ウィズコロナ」の時代へ

34年の歴史に幕

「シンデレラ夢まつり」 (かぼちゃ祭り)が開催終了

佐呂間町特産の「かぼちゃ」をテーマにした「シンデレラ夢まつり」が開催終了となりました。花火大会や仮装パレードなどが繰り広げられる、昭和63年から続けてきた9月の恒例イベントですが、新型コロナウイルスの影響による開催中止などを受け、34年の歴史に幕を閉じる形となりました。



玉井選手投球マシン寄贈

憧れの先輩から
投球マシンが寄贈

北海道日本ハムファイターズの玉井大翔投手(佐呂間町出身)から「僕の基礎となった地元少年野球チーム「佐呂間ライオンズ」の練習環境充実に少しでも力になれば」とピッチングマシンが寄贈されました。玉井投手と対面した選出たちは憧れのプロ野球選手を前に目を輝かせていました。「たくさん練習します」と感謝と意気込みが述べられました。



第43回全国中学校スケート大会スピードスケート競技

鈴木姉弟がそろって全国大会出場

1月に開催された第53回北海道中学校スケート大会で鈴木世梨さん(佐中3年)と鈴木彪雅さん(佐中1年)の姉弟が全国大会の出場権を獲得。2月に行われた全国大会では世梨さんが1500mで自己ベストを更新し、彪雅さんは3000mで自己ベストを更新、1500mでは1年生ながら5位入賞を果たしました。



サロマ湖に異変

ホッカイシマエビ大量死

8月17日特産のホッカイシマエビの死骸が大量に見つかりました。浅瀬の酸素濃度が低くなったことが原因と見られている。ホッカイシマエビ漁は資源保護のため5年間禁漁しています。



栃木地区の開拓の苦難を学ぶ

佐呂間高校生と東大生の
合同授業開催

9月19日、佐呂間高校1年生17名と、東大生9名との合同授業が開催されました。武田町長が講師となり、足尾鉬毒事件を機に栃木地区に移住してきた当時の人々の様子や、歴史について説明。栃木神社にある開拓記念碑や多聞寺も見学しました。



旭日双光章

加賀谷 修 氏

平成13年から連続5期20年にわたり、佐呂間町議会議員に在職。この間、平成25年からの4年間は同議会議長として本町および地方自治の振興発展に多大な功績を残されました。

網走選抜として攻守で活躍

佐呂間ライオンズから4選手が全国へ

10月28日・29日に苫小牧市で開催された第9回北海道学童軟式野球都市対抗戦に、網走選抜として佐呂間ライオンズ(佐呂間野球少年団)から4名が出場。3位決定戦で見事逆転勝利を納め、全国大会出場を決めました。佐呂間ライオンズはこの年、18年ぶりに全道大会へ出場しました。



第3期

2023

[令和5年]

2023年は5月に新型コロナウイルス感染症が2類から5類へと移行したこと、外国人観光客の訪日や国内人流がコロナ禍前の状況に戻り、消費・経済活動が活発化しつつありました。しかし昨年から続くウクライナ情勢による物価高騰で、国民生活への影響は続いています。

佐呂間町では、休止していた「悠林館」の営業再開や「さろま〜る」のオープン、サロマ湖展望台のリニューアルなど、コロナ明けに備えた観光拠点の整備が進んだ年でした。また、スピードスケートや野球といったスポーツにおいて若い世代の活躍が光り、全国大会出場の明るいニュースが相次ぎました。

コロナ禍を経て地方を取り巻く環境が一層厳しくなる中、町としては子育て世代の支援を中心に行政サービスの拡充に積極的に取り組み、佐呂間町の発展を目指しています。

新型コロナウイルスが5類へ移行
観光やスポーツの分野が活発化

観光案内や町民の交流の場

佐呂間町観光物産
交流拠点施設
「さろま〜る」がオープン

佐呂間町観光物産交流拠点施設が改修工事等を終了し、5月9日にオープンしました。施設の愛称は公募を行い、町内外566件の応募の中から、佐呂間町でまろく交流の輪が広がるようにという意味が込められた「さろま〜る」に決定しました。



サロマ湖を見渡せる唯一の場所

サロマ湖展望台がリニューアル

老朽化による施設改修工事のため昨年の夏より閉鎖していたサロマ湖展望台が改修工事を終え、4月27日にリニューアルオープン。27日には町内自治会長や一般住民の方々に参加していただき、オープンを記念したセレモニーが行われました。





おおやま そう き
大山 蒼騎さん(佐呂間小学校 1年)



おお かわら
大河原 いのりさん(浜佐呂間小学校 2年)



しもはら
下原 ゆいさん
(佐呂間小学校 1年)



わか さ が く
若狭 雅生さん(浜佐呂間小学校 2年)

子どもたちが描く 佐呂間の 未来図

佐呂間町では「人が輝く未来のサロマをめざして」というビジョンを掲げています。子どもたちにも未来への夢を描いてほしい。そんな思いで町政を進めています。子どもたちが描く未来はどんなものでしょう？自由に未来図を描いてもらいました。



かわまた ほ だか
川又 帆高さん
(若佐小学校 4年)

いのうえ りん と
井上 凌翔さん
(浜佐呂間小学校 5年)



※学年は令和6年度現在

まちにどんなものがあるといい？

将来の夢は？ どんな仕事がしたい？



バスケットボール選手になって
ももちゃんと楽しむ僕

すずき ひびと
鈴木 響人さん
(佐呂間小学校 4年)



むらおか そら
村岡 颯さん
(浜佐呂間小学校 2年)



やじま はな
矢島 羽菜さん
(浜佐呂間小学校 6年)



さいとう あお た
齊藤 葵汰さん
(浜佐呂間小学校 3年)



いのうえ はると
井上 暖翔さん
(浜佐呂間小学校 4年)



どもん とう ま
土門 柊馬さん
(浜佐呂間小学校 4年)



未来、まちはどんな風景になる？



わかざ らいく
若狭 頼生さん
(浜佐呂間小学校 4年)



2000年代～

町民に身近な話題を提供して愛読されてきた佐呂間町の広報誌「元氣な佐呂間町のまちづくり」を象徴するような「サロマげんき王国」という新コーナーでは、予防接種の話題や、食生活改善推進員の活動を紹介したり、町民の健康増進を図る取り組みが取り上げられました。

町民に愛読されるコンテンツを提供



まちのニュースを伝えてきた『広報誌』



PickUP

広報誌のあゆみ

佐呂間町の歴史を伝えてきた



1957年から毎月発行を続けてきた佐呂間町の広報誌。時代を移す鏡と言えるもので、暮らしの近くで実施されている町政の動きや町の取り組みなどを町民にわかりやすく伝えてきました。佐呂間町の歴史を、広報誌の紙面とともに振り返ります。

2010年代～

洗練された町の取り組みをPR
誌面もカラー版になり、新しいまちづくりをイメージさせる内容となりました。「Town Topics」という新コーナーでは、サロマ大収穫祭をダイナミックな写真を交えて紹介したり、3年間町内の小・中学生に英語を教えてくれたALT（語学指導助手）の方を紹介するなど、ワールドワイドなコンテンツも生まれました。



2020年代～

未来に向けた町の活動を紹介
がんばる佐呂間高等学校生徒を応援する各種支援制度を紹介したり、地域おこし協力隊として赴任してきた隊員たちが、日頃の悪戦苦闘のまちづくりについて綴る「サロマ活動日記」など、未来への元氣な取り組みを紹介しています。



1990年代～

時代の活気を
感じさせる紙面
100周年を迎えた1990年代は、広報誌でも100周年の記念事業などが多く取り上げられました。「まちの話題」コーナーでは、約1,500名のサイクリストが参加した「'95インターナショナルオホーツクサイクリング」の様子や、物産館「みのり」で行われたかぼちゃの苗植えが実施された様子などが伝えられています。佐呂間町の活気あふれるまちづくりの様子が伝わってきます。



次の時代を描いてきた『夢つうしん』



2000年代～

魅力ある町を創る
取り組み発信

佐呂間町教育委員会から、佐呂間中学校の姉妹校であるパーマ市のコローニ中学校からの留学生の話題や、町内の小学生を対象とした少年文化劇場開催の話題など、生涯学習に関係する話題を発信する「生涯学習ニュース」を中心に、文化・教育に関わるイベント情報を発信しました。

2010年代～

文化・教育・
スポーツ施設から紹介

「温水プール」「武道館」「トレーニングルーム」「ランニングコース」等を兼ね備えた多目的複合施設「Star」でのイベント情報や、新着本の紹介などを行った図書館だより、移動図書館車あおぞら号など、文化・教育・スポーツに関係する多彩な施設の取り組みを紹介しました。



2020年代～

未来への学びの場
づくり支援

少子高齢化が進む時代において、未来に向けた学びや体験の場づくり、地域に根差した文化づくりを進めていくことは、今後その重要性が広がってきます。その地域の生涯教育の発信の場として「夢つうしん」の存在意義を高めていきます。



町政の動きを伝えた『議会だより』



町議会の情報を
しっかり共有

町の条例や予算などを審議し決定する議会の動きを町民に知ってもらうために発信。「雇用」の問題についてや「河川及び道路整備について」など定例会における一般質問の内容や関連する調査事項の報告などを実施。議会傍聴者からの声なども掲載しました。

2010年代～

議会の動きを
分かりやすい形で
紹介

期間内の定例会の動きの報告に加えて、公共事業の執行状況などの町長行政報告を掲載したり、各種団体の皆さんと直接対話し意見交換を行う「議会懇談会」の実施報告などを行いました。



2020年代～

暮らしに
関わりのある
議会を発信

「まちの予算をみる」というような町民にわかりやすい形で予算の中身を紹介する特集記事や、町内の中学生が定例会の一般質問を傍聴した様子や感想を記載した記事など、町民に興味を持ってもらえる内容を交えながら議会の動きを紹介しています。



年表

SAROMA History
1994-2023

開基百年から30年、平成から令和へと時代の変化とともに発展を続けてきた佐呂間町。
地域の振興、産業や交通の発展、自然災害からの復興など、
町と北海道の歩みを振り返り、未来へとつながる軌跡をたどります。

2002年 平成14年	2001年 平成13年	2000年 平成12年	1999年 平成11年	1998年 平成10年	1997年 平成9年	1996年 平成8年	1995年 平成7年	1994年 平成6年
7月23日 富士土漁港灯台新設 「般こみの分別始まる」 9月1日 高規格遠軽北見道路「旭野トンネル」開通 11月20日	2月25日 東京サロマ会創立10周年 9月10日 佐呂間町の生産牛から国内初のBSE発生 10月4日 ルクシ峠崩落事故発生	4月1日 介護保険制度始まる 6月14日 「ホワイトドーム」完成 7月20日 パーマ市姉妹都市提携20周年	1月8日 ケアハウス「サンガーデンさろま」開設 3月7日 幌岩中学校閉校 10月 リサイクル資源の分別始まる 11月13日 知来開基百年	4月25日 道の駅「みのり」オープン 6月 第1回サロマ湖フォトコンテスト 8月28日 台風5号により町内に被害 10月11日 若佐農村公園オープン 10月18日 佐呂間高校創立50周年記念	2月27日 キムアネップ岬キャンプ場休憩所完成 11月2日 佐呂間中学校創立50周年	4月1日 女性消防団員誕生 9月6日 都農町訪問団初来日 9月8日 第1回サロマ大収穫祭開催 10月20日 文化連盟創立30周年 11月3日	4月 移動図書館「あおぞら号」巡回始まる 6月14日 パーマ市姉妹都市提携15周年	10月15日 佐呂間町開基百年 11月 武道館温水プール「スター」落成 12月 サロマ湖の宿「悠林館」オープン
1月21日 全日空391便函館空港着陸失敗事故 6月1日 ワールドカップ開幕戦が札幌ドームにて開催 7月10日 道警警部が覚醒剤取締法違反で逮捕	2月15日 道の支庁制度検討委は現行14支庁を8支庁とすることを決めた 6月2日 羊が丘に札幌ドーム「HIROBA」オープン 12月23日 太平洋成鉱の事業を引き継ぐ「釧路コールドマイン」の設立総会が開催された	3月31日 有珠山が23年ぶりに噴火 4月9日 女子柔道で旭川出身の上野雅恵が、シドニー五輪代表に決定 12月8日 国道二九号の新豊浜トンネルが片側交互交通で暫定開通	1月22日 道の14支庁制度の見直しを論議する「支庁制度検討委員会」が発足した 7月30日 千歳川放水路計画の中止が表明 12月20日 新千歳ー羽田線に新規参入したエア・ドゥが就航1周年を迎えた	5月6日 札幌市は羊ヶ丘に建設する「札幌ドーム」の建設計画を発表 6月26日 経営破たんした北海道拓殖銀行が最後の株主総会を開き、営業譲渡と解散を決議 11月9日 雌阿寒岳が2年ぶりに噴火	1月17日 道発注の公共事業を対象とする「環境配慮指針」をまとめた道議会に報告 7月10日 北海道南西沖地震から四年ぶりにアワビ漁が復活 11月21日 道は財政健全化に伴う職員削減計画について5年間で5%4人程度を目標とする計画骨子をまとめる	2月10日 豊浜トンネルが落盤 8月6日 第20回全国高校総合文化祭が札幌など四市16会場で開催 9月10日 帯広市内の園児らが病原性大腸菌O157に感染 10月24日	6月22日 山形県上空、羽田発函館行きジャンボ機でハイジャック事件が発生 7月12日 北海道南西沖地震一周年で、合同追悼式と洋上慰霊祭が行われた 11月3日 蒸気機関車C62のニセコ号が経費問題などで運転中止	3月15日 本道初の看護単科大学が北見市美園地区に建設決定 5月1日 絶滅危惧種で天然記念物のシマフクロウの人口ふ化に成功 10月4日 関東大震災並みのM8・1の地震が発生。負傷者は330人を超える
5月31日 日本と韓国で日韓ワールドカップが共同開催 9月17日 第1回日朝首脳会談で金正日国防委員長は、日本人の拉致を初めて認めて謝罪	9月11日 アメリカ同時多発テロ事件発生 10月23日 AppleがiPodを発表し、世界的に大ヒットする 12月1日 皇太子妃雅子さま、女児ご出産	4月1日 介護保険制度スタート 6月13日 第1回南北首脳会談が平壤で行われた 9月15日 シドニーオリンピック開催	1月1日 11カ国でユーロが導入され、欧州統合が大きく進む 6月10日 コンボ紛争終結	2月7日 冬季オリンピック長野大会開催 4月1日 消費税率5%へ引き上げ 9月4日 グーグル創業	7月1日 香港が中国に返還される 8月31日 ダイアナ妃がパリで交通事故により死去	4月1日 消費税率5%へ引き上げ 7月19日 アトランタオリンピック開催	1月17日 阪神・淡路大震災発生 3月20日 東京で地下鉄サリン事件発生 12月 ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争終結内戦が終結	1月1日 北米自由貿易協定（NAFTA）発効 5月10日 ネルソン・マンデラ氏が、南アフリカ共和国大統領就任 9月18日 イチロー選手が日本球界初のシーズン200安打達成



パーマ市姉妹都市提携20周年【2000(平成12)年7月20日】



台風被害【1998(平成10)年8月28日】



佐呂間中学校創立50周年【1997(平成9)年11月2日】



佐呂間町開基百年記念式典【1994(平成6)年10月15日】

2012年 平成24年	2011年 平成23年	2010年 平成22年	2009年 平成21年	2008年 平成20年	2007年 平成19年	2006年 平成18年	2005年 平成17年	2004年 平成16年	2003年 平成15年
佐呂間町の流れ 4月24日 緊急速報「エリアメール」運用開始 4月1日 さろま子育て応援医療費助成事業開始 6月29日 佐呂間の花嫁「お見合い大作戦」開催 7月1日	佐呂間町の流れ 3月31日 佐呂間厚生病院が無床クリニック規模縮小 4月21日 栃木地区開基百年 8月18日 佐呂間中学校女子ソフトボール部が初の全国大会出場	佐呂間町の流れ 7月15日 パーマ市姉妹都市提携30周年 8月 佐呂間町出身者3名が初の甲子園出場 10月1日 「ふれあいバス」運行開始「北見バス」「湧網線代替バス」廃止	佐呂間町の流れ 3月14日 新佐呂間トンネル開通「北見市までの時間短縮」 10月1日 イーグルライナー若佐停留所開設 11月 地上デジタルテレビ放送始まる「町内中継局稼働」	佐呂間町の流れ 1月29日 東京都港区「三田商店街振興組合」との交流始まる 8月24日 町長選川根章夫氏当選、新たな町政スタート 11月 佐呂間医院閉院「70年の歴史に幕」	佐呂間町の流れ 2月20日 小中学校で学校給食始まる 3月29日 佐呂間町納税貯蓄組合連合会解散 9月14日 新佐呂間トンネル貫通式	佐呂間町の流れ 3月17日 佐呂間幼稚園幼保一元化で閉園 4月1日 町内小中学校再編により学校統合「3小学校、1中学校に」 10月7日 低気圧の停滞で記録的豪雨、初の避難勧告発令 11月7日 若佐で国内最大規模の竜巻発生「死者9名」	佐呂間町の流れ 2月20日 三町合併が破談 8月1日 新佐呂間保育所開設「全国初の幼保一元化実現」 11月20日 若佐地区開基百年	佐呂間町の流れ 1月13日 爆弾低気圧による大雪、暴風雪「積雪164cm」 5月31日 町立若佐診療所が閉所 7月 パーマ市姉妹都市提携25周年	佐呂間町の流れ 4月1日 ごみの有料化始まる 7月11日 名誉町民「船木長郎」氏が逝去 12月8日 佐呂間町、湧別町、上湧別町で合併協議会設立
北海道の流れ 2月7日 道が日高横断道路の建設凍結を表明 8月10日 台風10号が日高管内で390ミリの雨量を記録 9月26日 マグニチュード推定8.0の十勝沖地震発生	北海道の流れ 3月27日 日本ハムが4年ぶりにAクラス入り 8月22日 全国高校野球選手権大会で駒大苫小牧高が全国制覇 10月19日 全国初の子育て支援条例が施行	北海道の流れ 2月27日 オホーツク海岸で重油まみれの海鳥の死骸が見つかる 5月6日 アイヌ民族初の国会議員である菅野茂氏死去 10月26日 日本ハムが44年ぶり2度目の日本一	北海道の流れ 9月5日 道営ホッカイドウ競馬の旭川競馬場での開催を、道が2008年度限りでやめる方針を固める 5月26日 札幌市水道記念館、リニアアルオープン 12月1日 サッカーJ2のコンサドーレ札幌が優勝、J1昇格	北海道の流れ 4月3日 日本通運現金輸送車から1億1500万円が盗まれる 6月11日 北海道中央バスが札幌市内の路線バス9路線を12月末で廃止すると発表 10月25日 ICU乗車券「kitaka（キタカ）」のサービスが開始	北海道の流れ 9月5日 道営ホッカイドウ競馬の旭川競馬場での開催を、道が2008年度限りでやめる方針を固める 5月26日 札幌市水道記念館、リニアアルオープン 12月1日 サッカーJ2のコンサドーレ札幌が優勝、J1昇格	世の中の流れ 2月10日 冬季五輪トリノ大会 9月6日 秋篠宮文仁親王に男児が誕生 11月26日 第26回ジャパンカップで、武豊騎乗のデーブインパクトが優勝	世の中の流れ 3月25日 愛知万博開催 4月25日 JR福知山線脱線事故発生 11月26日 惑星探査機はやぶさが小惑星イトカワへ着陸し、月以外の天体から世界で初めて岩石の採取に成功	世の中の流れ 8月13日 アテネオリンピック開催 12月26日 インド洋大津波発生	世の中の流れ 2月1日 スペースシャトルコロンビア号空中分解事故 3月20日 イラク戦争勃発 12月9日 臨時閣議で、イラク復興支援特措法に基づき自衛隊イラク派遣を決定
世の中の流れ 4月26日 渋谷駅東口に複合商業施設「渋谷ヒカリエ」開業 5月22日 東京スカイツリータワー開業 9月29日 レスリングの吉田沙保里氏が世界選手権で優勝し、史上最多記録となる世界大会13連覇を達成	世の中の流れ 3月11日 午後2時46分頃、東日本大震災が発生 7月18日 2011 FIFA 女子ワールドカップドイツ大会で、サッカー日本女子代表が初優勝 7月24日 地上アナログテレビ放送が停波し、地上デジタル放送に完全移行	世の中の流れ 1月1日 平成遷都1300年祭が奈良県で開幕 1月1日 日本年金機構発足 6月13日 小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還	世の中の流れ 5月21日 裁判員法が施行され、裁判員裁判が始まる 9月1日 消費者庁が発足 11月5日 国内初のプルサーマル発電を開始	世の中の流れ 4月1日 後期高齢者医療制度（長寿医療制度）スタート 8月8日 北京オリンピック開幕 11月4日 米大統領選でオバマ氏当選	世の中の流れ 2月18日 第1回東京マラソン開催 10月1日 日本郵政公社解散、日本郵政株式会社と4つの事業会社に分かれ、郵政民営化が行われた	世の中の流れ 2月10日 冬季五輪トリノ大会 9月6日 秋篠宮文仁親王に男児が誕生 11月26日 第26回ジャパンカップで、武豊騎乗のデーブインパクトが優勝	世の中の流れ 3月25日 愛知万博開催 4月25日 JR福知山線脱線事故発生 11月26日 惑星探査機はやぶさが小惑星イトカワへ着陸し、月以外の天体から世界で初めて岩石の採取に成功	世の中の流れ 8月13日 アテネオリンピック開催 12月26日 インド洋大津波発生	世の中の流れ 2月1日 スペースシャトルコロンビア号空中分解事故 3月20日 イラク戦争勃発 12月9日 臨時閣議で、イラク復興支援特措法に基づき自衛隊イラク派遣を決定



佐呂間の花嫁「お見合い大作戦」開催【2012(平成24)年6月29日～7月1日】



新佐呂間トンネル開通【2009(平成21)年3月14日】



記録的豪雨、河川氾濫水害発生【2006(平成18)年10月7日】



佐呂間町、湧別町、上湧別町で合併協議会設立【2003(平成15)年12月8日】

2023年 令和5年	2022年 令和4年	2021年 令和3年	2020年 令和2年	2019年 令和元年	2018年 平成30年	2017年 平成29年	2016年 平成28年	2015年 平成27年	2014年 平成26年	2013年 平成25年
4月27日 サロマ湖展望台リニューアル 5月9日 佐呂間町観光物産交流拠点施設「さろま〜る」オープン 8月17日 禁漁中のホッケイシマエビ大量死 9月2日 第1回さろま秋宵まつり開催	4月1日 佐呂間町初の地域おこし協力隊採用 5月1日 佐呂間町合葬墓が完成受付始まる 9月 「シンデレラ夢まつり」が開催終了34年の歴史に幕 10月3日 庁舎建て替えに向け第1回新庁舎建設検討審議会開催	4月1日 佐呂間町防災行政無線放送始まる 4月 小中学校給食費無償化へ 4月 佐呂間高校卒業生支援対策事業開始	3月 新型コロナウイルス感染症拡大「各種対策」 7月17日 第5期佐呂間町総合計画策定 9月14日 町長選武田温友氏当選、新たな町政スタート	5月26日 5月の気温39・5℃を記録「全国観測史上1位」 12月9日 TOYO TIRES 佐呂間タイヤテストコースの新事務所開設	9月6日 胆振東部地震の影響で生乳の大量廃棄 11月18日 佐呂間高校吹奏楽局が全国大会最優秀賞 11月18日 牡蠣トーン食べ放題に大行列	9月18日 台風18号上陸農作物に被害 11月1日 高齢者福祉住宅「安心ハウス」完成	4月1日 町の公共施設が全面禁煙 10月20日 玉井大翔選手が北海道日本ハムからドラフト指名 「佐呂間町初のプロ野球選手に」	10月8日 台風23号大雨で大きな被害。2日間で187mm記録 10月30日 クリニックさろま新施設完成	3月31日 佐呂間町開基120年 小田医院閉院「36年の歴史に幕」 4月1日 クリニックさろま開設	3月2日 発達した低気圧の影響により記録的大雪「避難所開設」 3月18日 酪農学園大学と「地域総合交流に関する協定」締結 4月1日 「高機能消防司令システム」導入
2月 半導体メーカーのラピダスが千歳へ進出を決定 3月30日 「北海道ポールパークFビレッジ」開業 6月 遠軽の黒曜石が国宝に指定される	1月4日 道内で初めて新型コロナのオミクロン株の感染を確認 4月23日 知床半島西海岸沖で観光船が沈没 9月20日 21年に旭川で女兒が凍死した事件で第三者委員会がいじめと認定する内容を公表	7月27日 「北海道・北東北縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録 8月 札幌で五輪競技であるマラソン、競歩、サッカー競技が開催される 9月11日 東部太平洋岸で赤潮が発生。ウニ、サケを中心に90・7億円の漁業被害	2月27日 新型コロナウイルス感染症により道内全公立小中学校を臨時休業 6月10日 YOSAKOIソーラン祭り中止 7月12日 29回目にして初 国立アイヌ民族博物館開業	2月28日 円山動物園が希少種保全園に認定 4月11日 浜中市出身のモンキーパンチ氏が死去 5月4日 北海道で日本の民間企業が初めてロケットの打ち上げに成功	3月31日 アイヌ民族博物館閉館 9月6日 北海道胆振東部地震 5月24日 日本遺産に「上川アイヌ文化」景観や儀式一括認定	7月23日 小樽芸術村開業 7月31日 明治期に盗掘されたアイヌ遺骨が独より返還 8月29日 北朝鮮の弾道ミサイルが北海道上空を通過「アラート」が作動	3月26日 北海道新幹線（新青森―新函館北斗間）開業 8月 台風が三つ上陸。連続的な豪雨により甚大な被害 11月18日 JR北海道単独維持が困難な10路線12線区を発表	3月12日 トワイライトエクスプレスが運行終了 9月22日 アポイ岳が世界ジオパークに認定 10月 連ドラの影響でニッカウエスキー余市蒸留所の来場者が80万人を突破	7月19日 札幌国際芸術祭の第2回が開催 10月1日 南幌町で女子高生が母親と祖母を殺害する 12月1日 北海道新幹線の走行試験が始まる	3月1日 暴風雪により9人死亡 5月3日 北方歴史資料館開館 11月 貨物列車の脱線事故が発生。JR北海道社員によるデータ改竄が判明 12月9日
4月1日 こども家庭庁発足、こども基本法施行	2月24日 ロシアがウクライナへ侵攻 4月1日 改正民法施行に伴い、成年年齢が18歳に引き下げられた 7月8日 安倍晋三元首相銃撃事件が発生	3月 ロシア・ウクライナ危機 7月23日 東京オリンピック開幕 8月24日 東京ハリンピック開幕	1月16日 新型コロナウイルス感染症の感染者を日本で初確認 3月29日 タレントの志村けん氏が新型コロナウイルス感染症に伴う肺炎により70歳で死去 4月7日 安倍晋三首相は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、緊急事態宣言を発令	4月30日 天皇の退位等に関する皇室典範特例法の施行に伴い、第125代明仁天皇が退位（上皇） 5月1日 徳仁皇太子が第126代天皇に即位し、「令和」に改元された 10月1日 消費税率が10%に引き上げ	6月28日 平成30年7月豪雨が発生 7月2日 フィギュアスケートの羽生結弦氏が、個人としては史上最年少となる23歳で国民栄誉賞を受賞 9月16日 歌手の安室奈美恵氏が引退	12月5日 将棋棋士の羽生善治氏が史上初の永世七冠を達成	4月14日 熊本地震発生 9月17日 「週刊少年ジャンプ」の漫画「こちら葛飾区亀有公園前派出所」が連載終了 12月31日 アイドルグループ・S・MAP が解散	2月26日 イギリス王室のウィリアム王子が日本を初訪問 9月19日 安全保障関連法が成立	3月9日 宇宙飛行士の若田光一氏が日本人初の国際宇宙ステーション船長に就任 4月1日 消費税率8%へ引き上げ 9月27日 御嶽山が噴火	5月5日 長嶋茂雄氏と松井秀喜氏に国民栄誉賞が授与される 6月22日 富士山が世界文化遺産に登録される



「さろま〜る」オープン【2023(令和5)年5月9日】



TOYO TIRES 佐呂間タイヤテストコースの新事務所開設【2019(令和元)年12月9日】



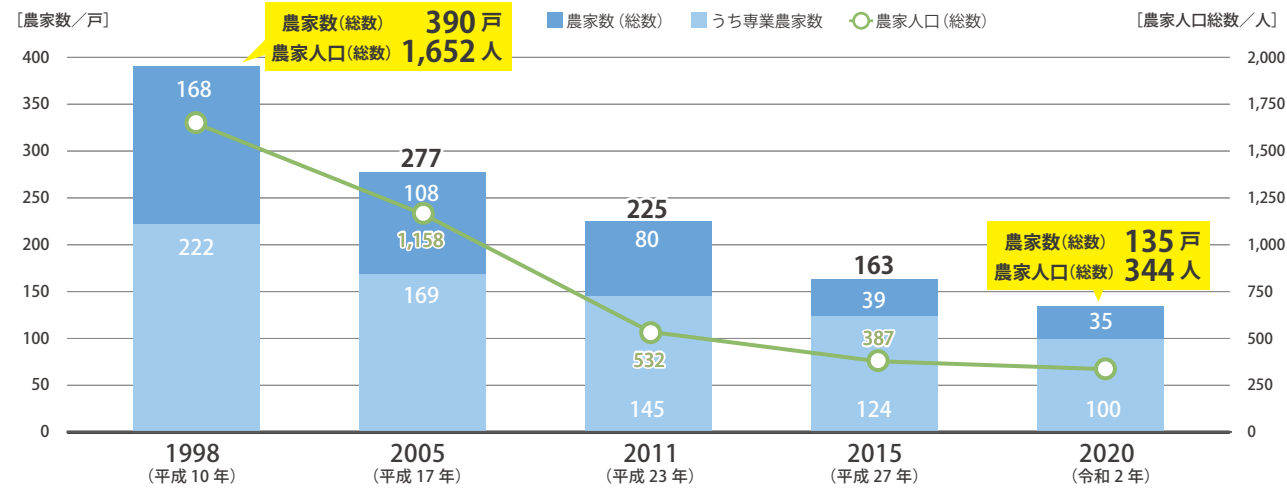
佐呂間町初のプロ野球選手・玉井大翔投手【2016(平成28)年10月20日】



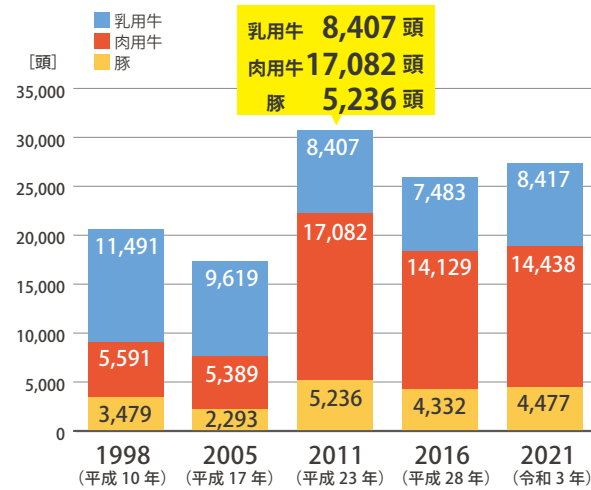
高機能消防指令システム【2013(平成15)年4月1日】

農業

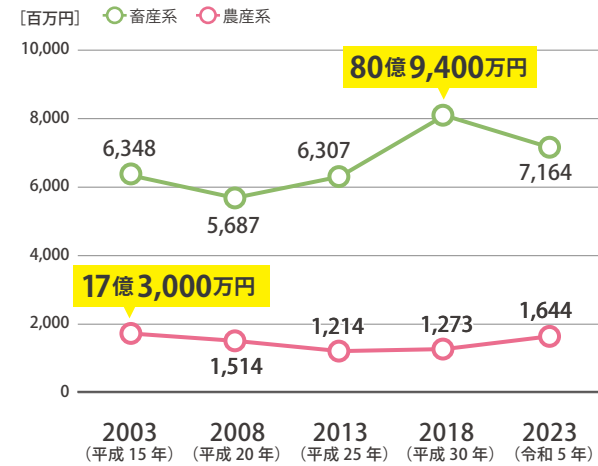
農家数、農家人口の推移



家畜飼養頭数

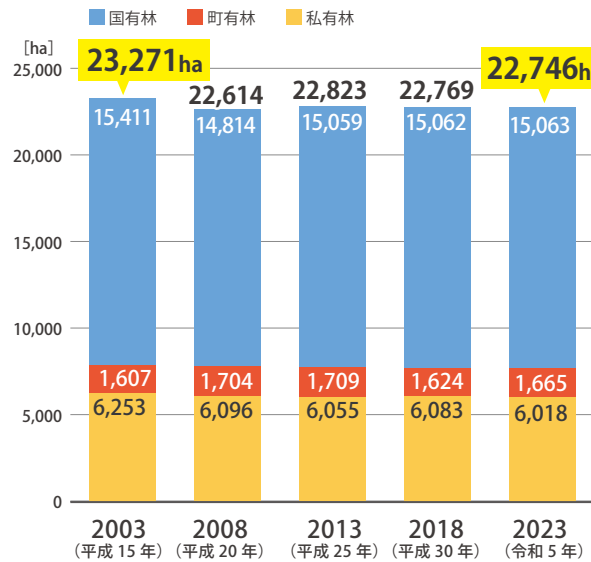


農業生産額

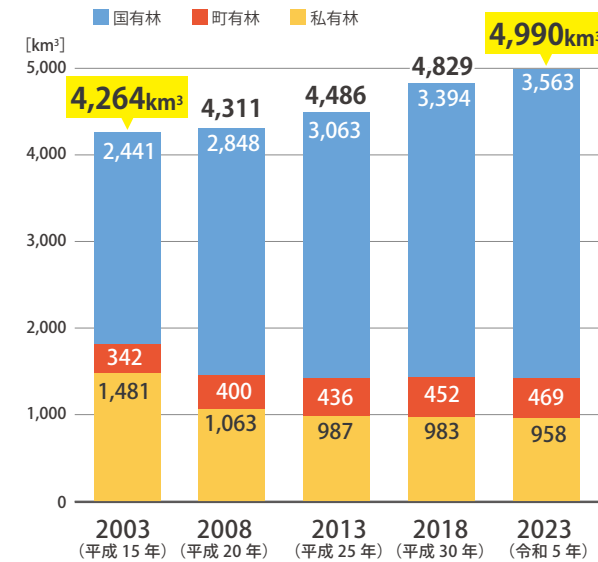


林業

森林面積

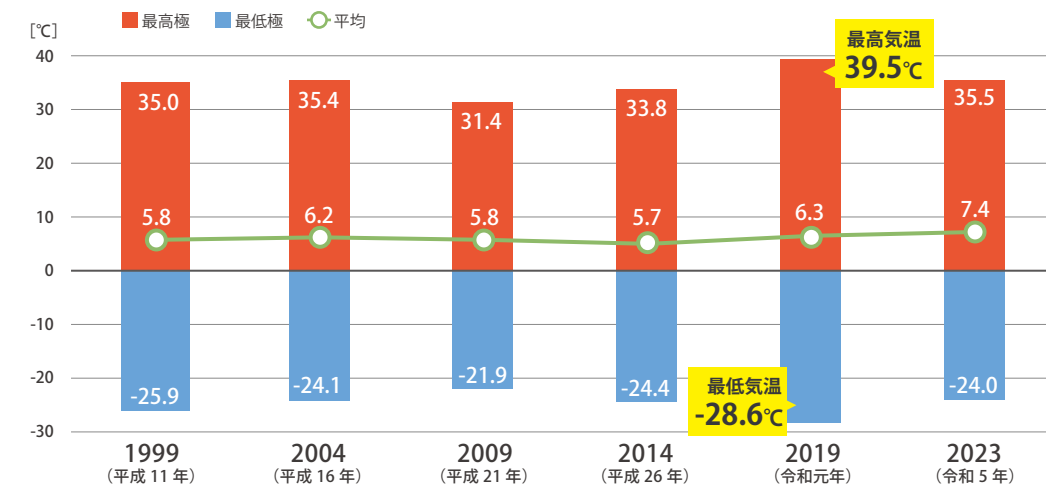


森林蓄積



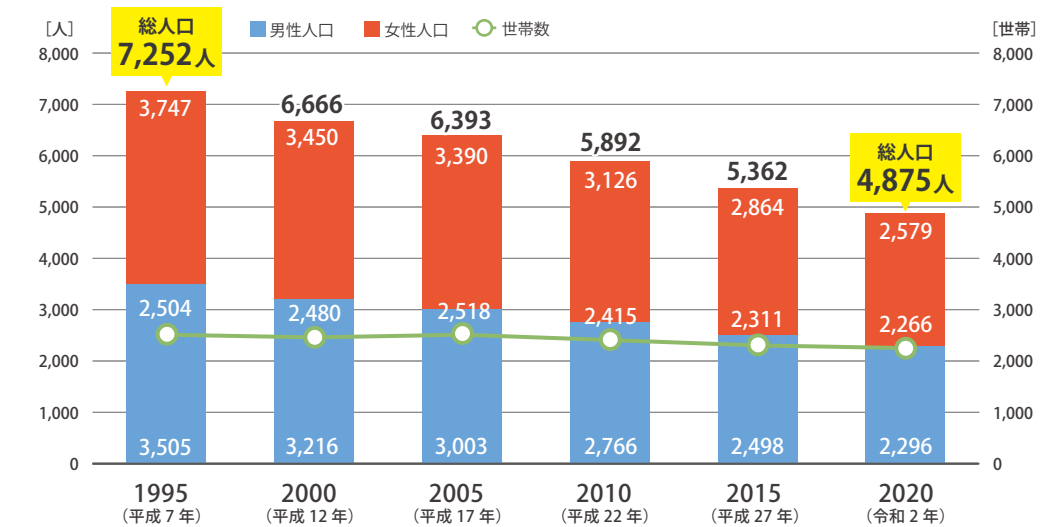
気象

気温の推移

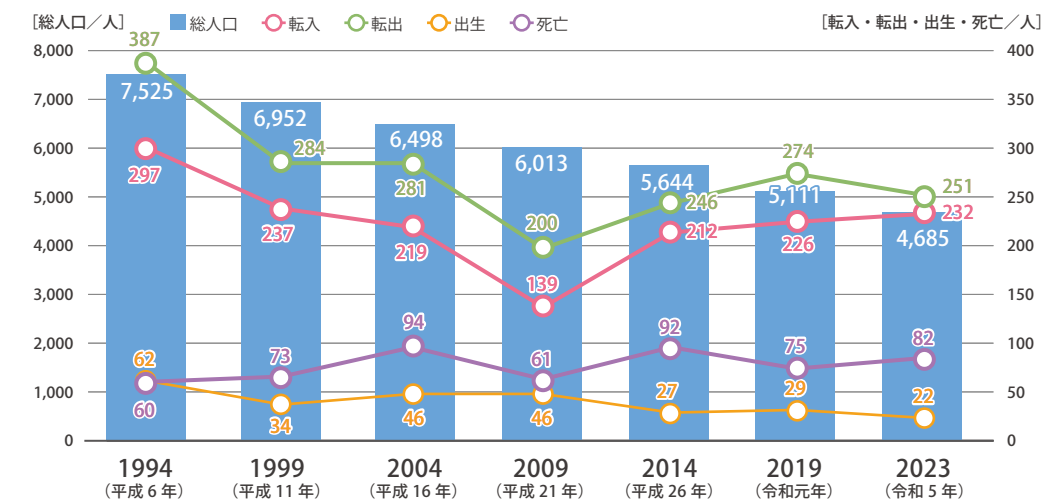


人口

人口・世帯数の推移



人口動態

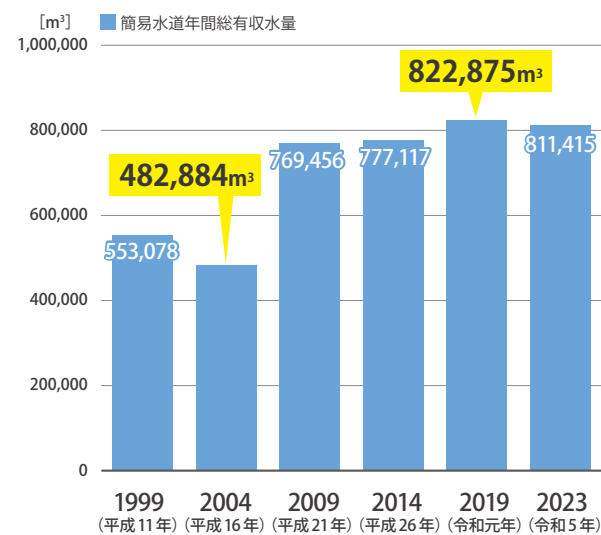


数字で見る
佐呂間の動き

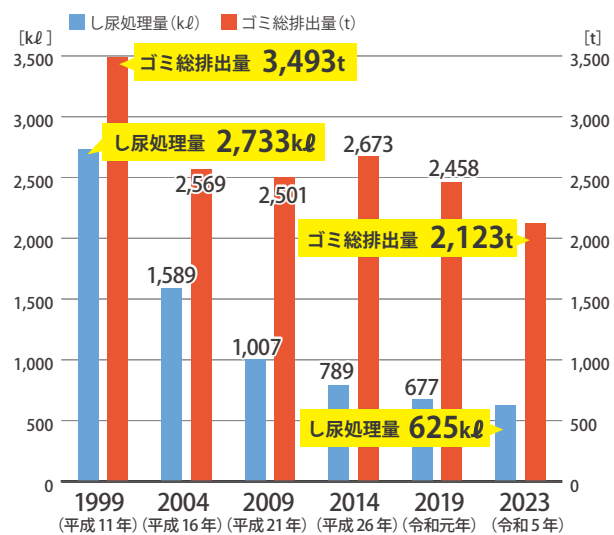
SAROMA Data
1994-2023

生活環境

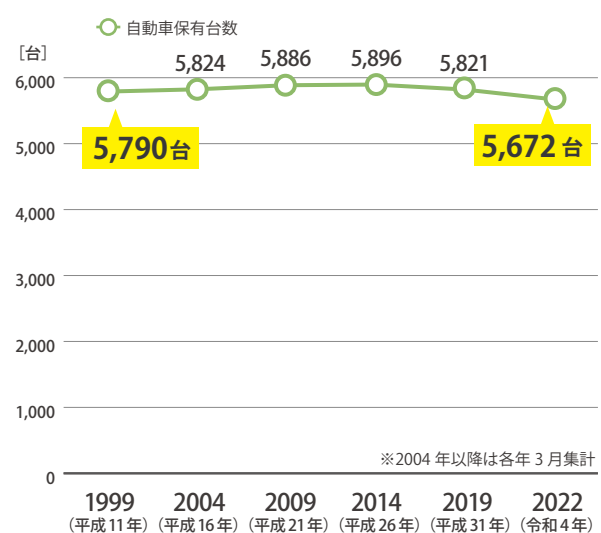
水道



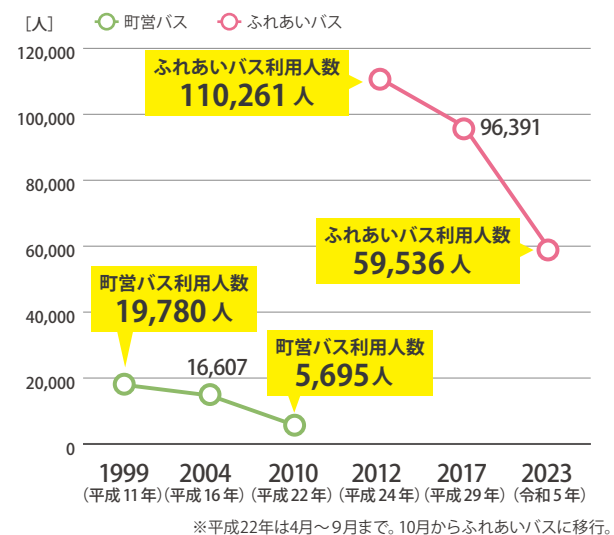
衛生



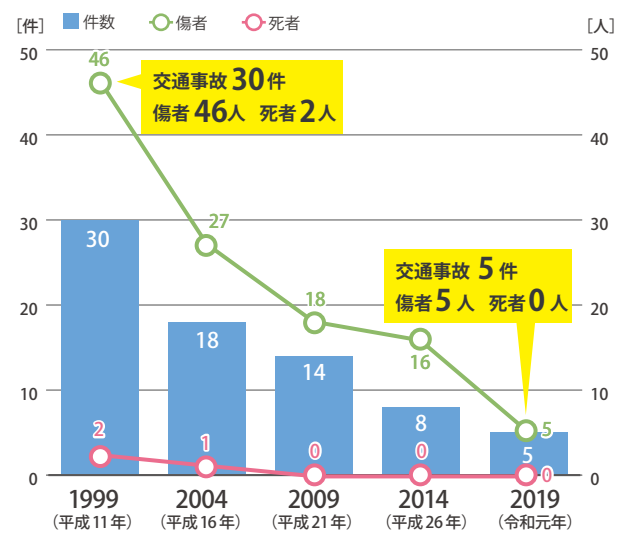
自動車



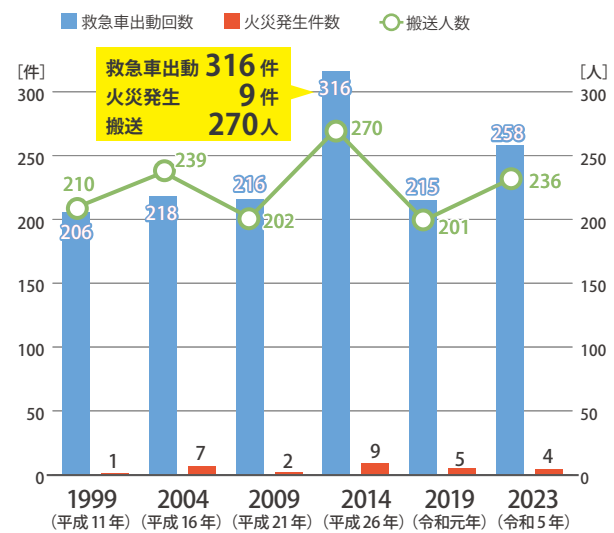
町営バス・ふれあいバス



交通事故発生状況

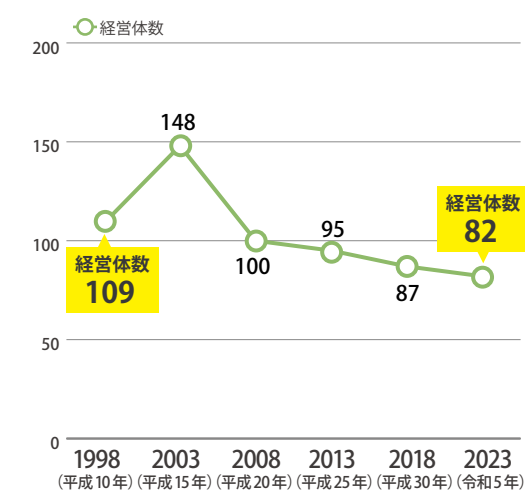


救急

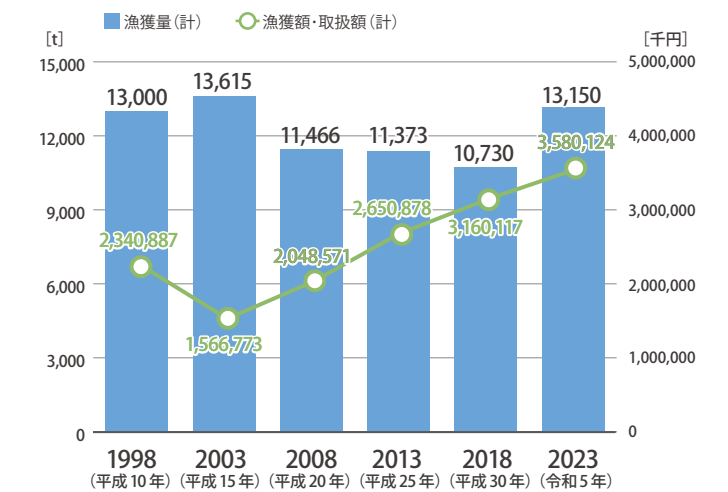


水産業

経営体数



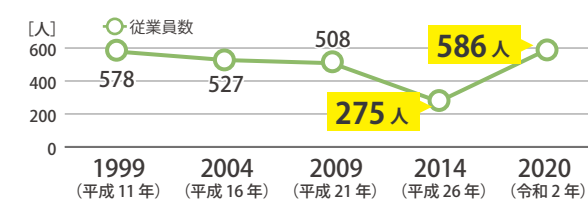
漁種別漁獲量及び漁獲額



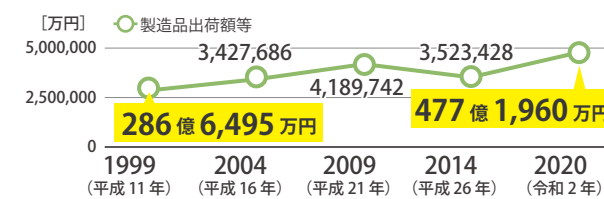
工業

※従業員4人以上
2020年は6月1日集計

従業員数

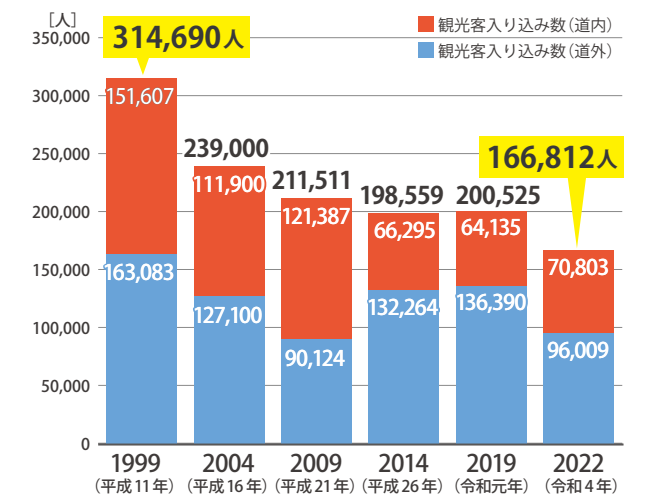


製造品出荷額



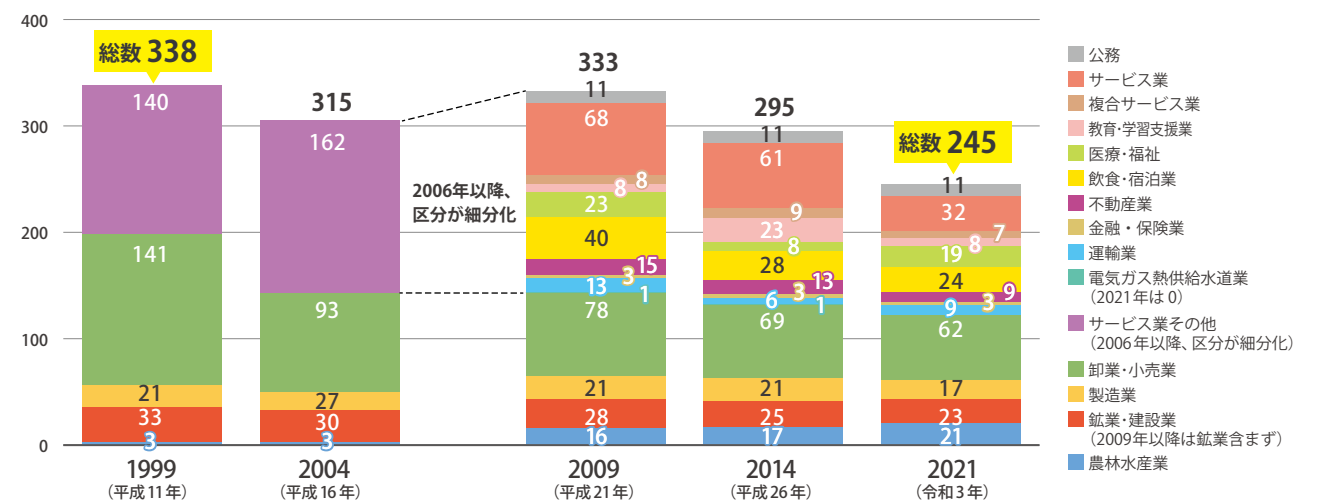
観光

観光客入り込み数



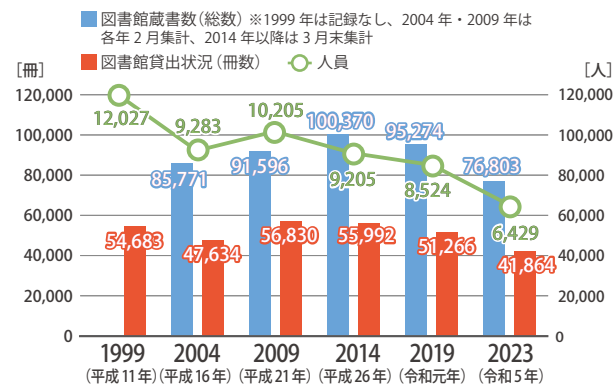
事業所

事業所数の推移

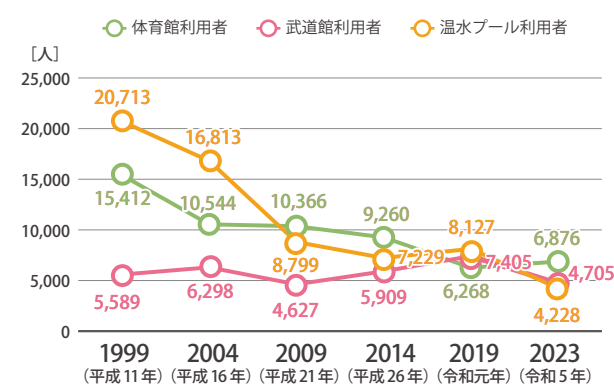


【社会教育】

図書館利用状況



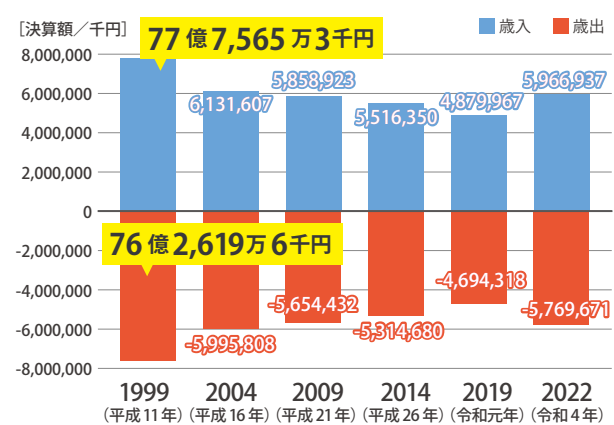
体育館・武道館・温水プール利用状況



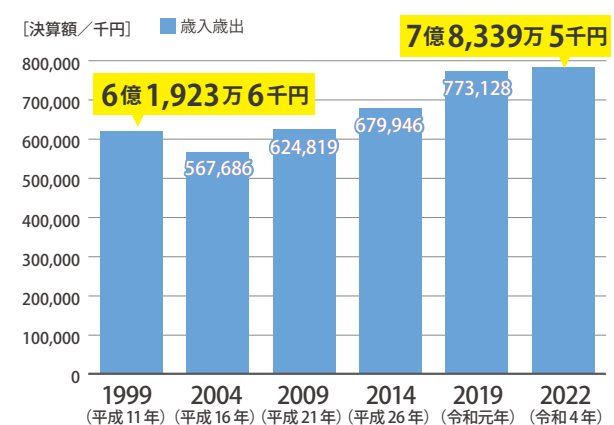
行 財 政

【財政】

町費負担状況 一般会計の決算



町費負担状況 町税負担

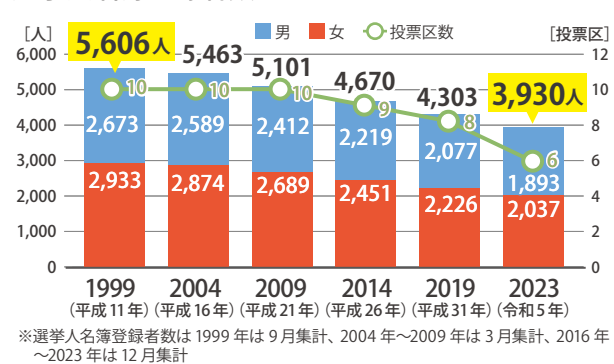


各会計決算

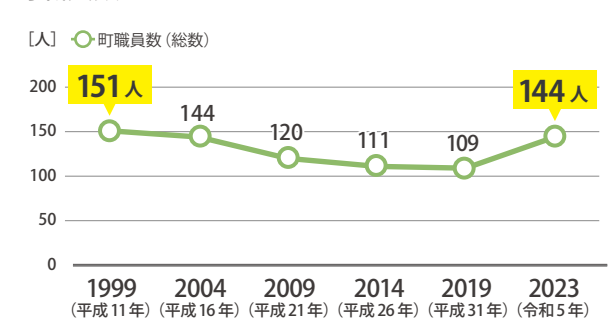
		1999 (平成11年)	2004 (平成16年)	2009 (平成21年)	2014 (平成26年)	2019 (令和元年)	2022 (令和4年)
一般会計	歳入	7,775,653	6,131,607	5,858,923	5,516,350	4,879,967	5,966,937
	歳出	7,626,196	5,995,808	5,654,432	5,314,680	4,694,318	5,769,671
合 計	歳入	10,520,514	9,426,204	8,260,092	7,827,660	7,204,959	8,272,582
	歳出	10,240,706	9,177,599	7,947,957	7,535,450	6,964,027	7,904,345

【町政】

選挙人名簿登録者数

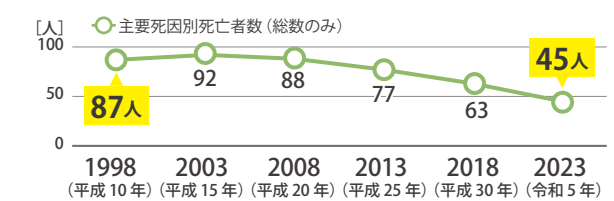


町職員数

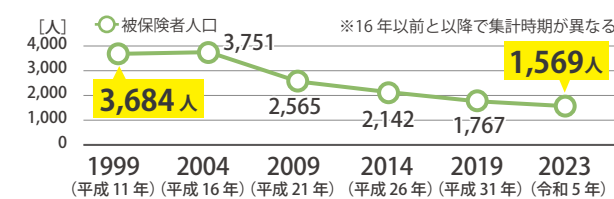


保 健 ・ 福 祉

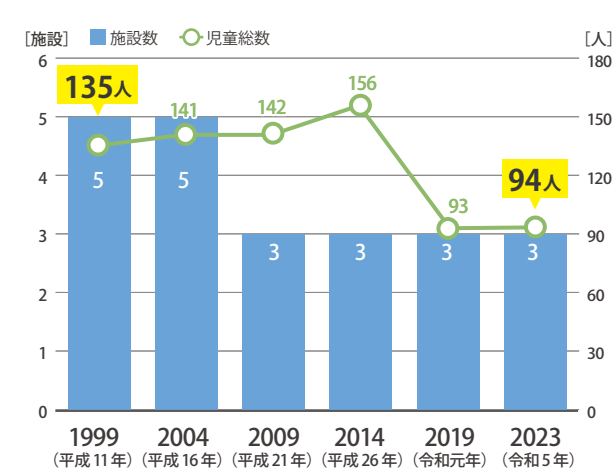
主要死因別死亡者数



国民健康保険被保険者



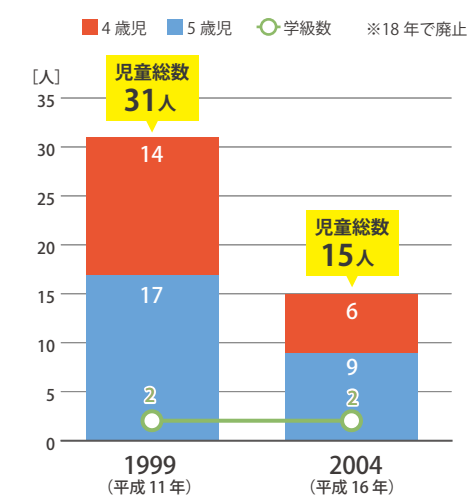
保育所の状況



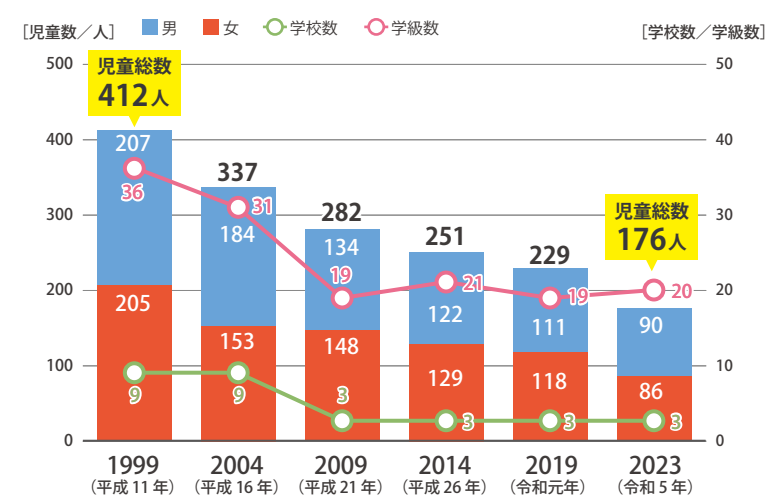
教 育

【学校教育】

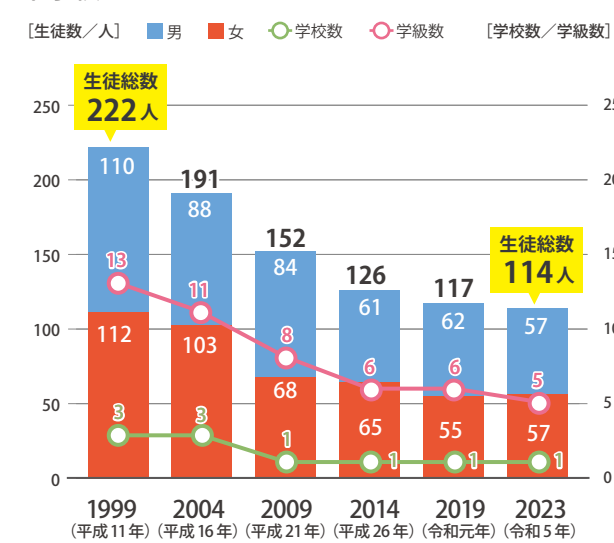
幼稚園



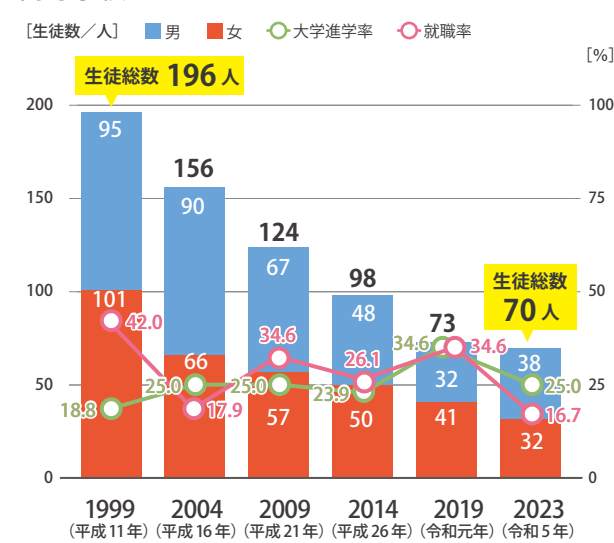
小学校



中学校



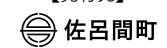
高等学校



写真でつづる佐呂間町 130 年のあゆみ

令和7年3月31日 発行

【発行元】



佐呂間町

〒093-0592 北海道常呂郡佐呂間町字永代町3番地の1
電話 01587-2-1211 / FAX 01587-2-3368 (代表 総務課)

【印刷・製本】



清成印刷株式会社